取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PRIUS α

TABLE OF CONTENTS
目次

メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、
別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

TABLE OF CONTENTS | 目次

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

さくいん

1
2
3
4
5
6

外観

フロントワイパー P. 189
ボンネット P. 313
ドアミラー P. 96
サイド方向指示灯 P. 166
フロント方向指示灯 P. 166
ヘッドライト P. 181
車幅灯 P. 181
フロントフォグライト*
P. 186, 187

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

イラストは 7 人乗り車で代表しています。

A

サンバイザー※ P. 269
バニティライト P. 270
パーソナルライト＊2 P. 253
フロントインテリアライト＊2 P. 252
リヤインテリアライト P. 252
ITOPW004a
コートフック P. 282
SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 111
アシストグリップ P. 283
バニティミラー P. 270
パノラマルーフシェードスイッチ＊1 P. 284
オーバーヘッドコンソールボックス＊1 P. 265
インナーミラー P. 95

＊1：車両型式などで異なる装備やオプション装備
＊2：パノラマルーフの有無により形状が異なります。

※： やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→P. 136）

B
ドアミラースイッチ P. 96
ウインドウロックスイッチ P. 98
ドアロックスイッチ P. 60
パワーウインドウスイッチ P. 98
ロックレバー P. 60
MIRROR
ALL AUTO
ITOPW005a

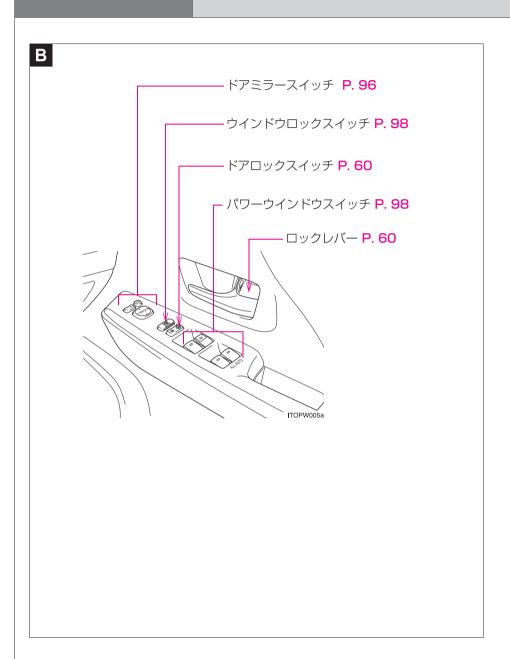
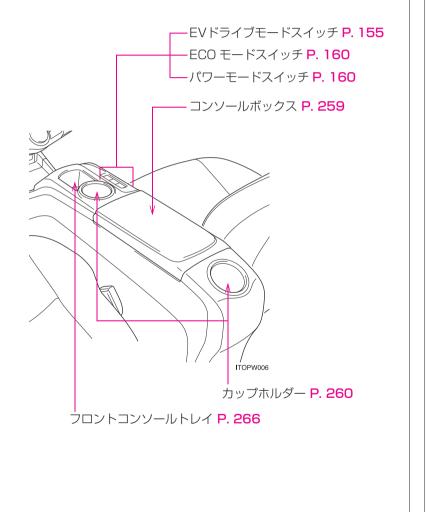
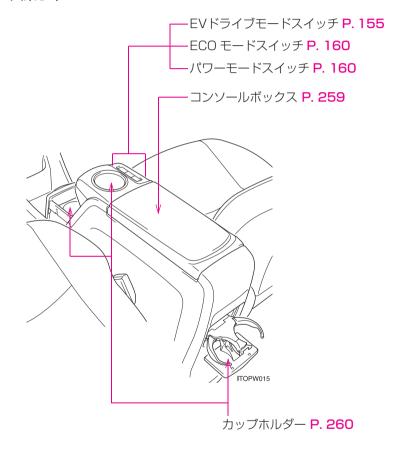
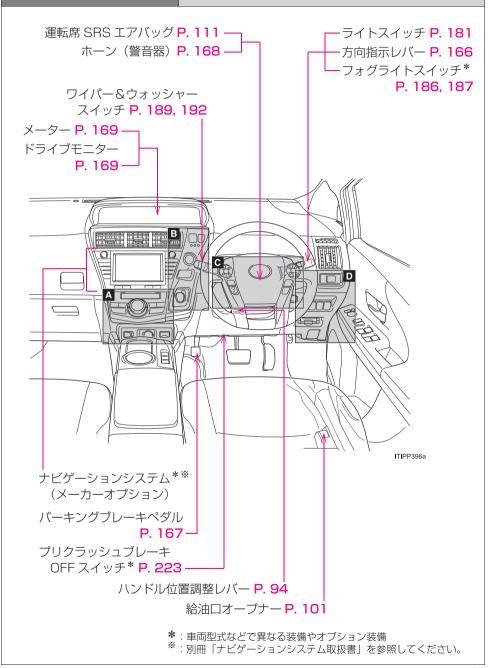
C

7人乗り車

EV ドライブモードスイッチ P. 155
ECO モードスイッチ P. 160
パワーモードスイッチ P. 160
コンソールボックス P. 259
ITOPW006
カップホルダー P. 260
フロントコンソールトレイ P. 266

C

5 人乗り車

EVドライブモードスイッチ P. 155
ECO モードスイッチ P. 160
パワーモードスイッチ P. 160
コンソールボックス P. 259
ITOPW015
カップホルダー P. 260

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

オートエアコン P. 238

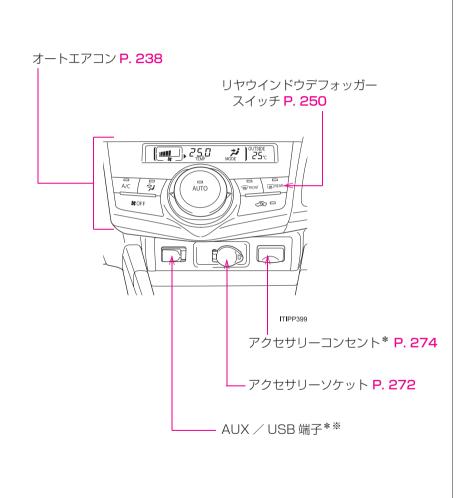
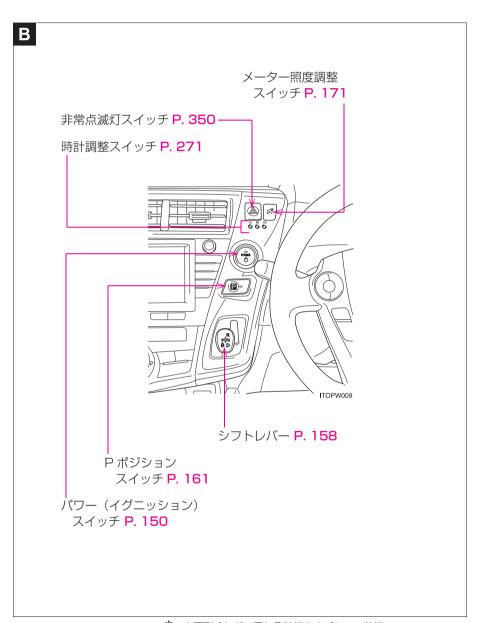
リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 250

ITIPP399

アクセサリーコンセント＊ P. 274

アクセサリーソケット P. 272

AUX ／ USB 端子＊※

B

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

C

TRIP スイッチ P. 170

DISP スイッチ P. 171, 175

エアコン操作スイッチ P. 249

車間距離切りかえスイッチ* P. 201

オーディオ操作スイッチ※

MODE

TEMP

DISP

TRIP

+RES

−SET

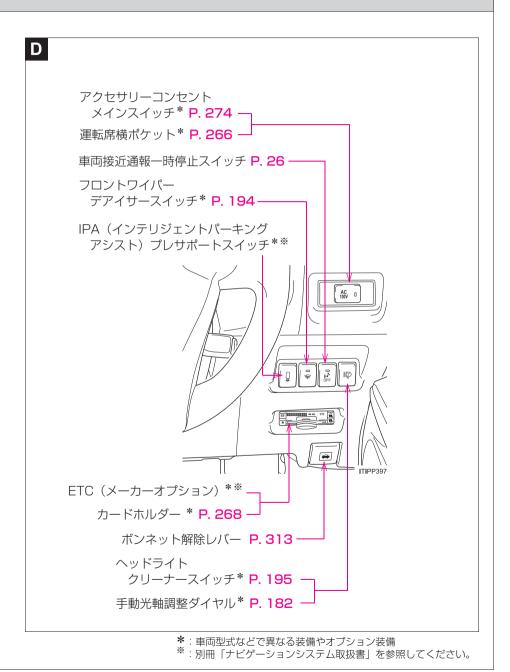
ITOPW010a

トークスイッチ*※

電話スイッチ*※

クルーズコントロールスイッチ* P. 196

レーダークルーズコントロールスイッチ* P. 201

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・ 電装品の取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
（法律で義務付けられています）

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・ エンジン回転数
・ 電気モーター回転数
・ アクセルの操作状況
・ ブレーキの操作状況
・ 車速
・ シフトポジション
・ 駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 129)をお読みください。

■駆動用電池について

絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。

適切に回収されないと次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 不法投棄または放置され、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
- 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

■駆動用電池の廃棄について

駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本書の中の表示について

警告・注意・知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

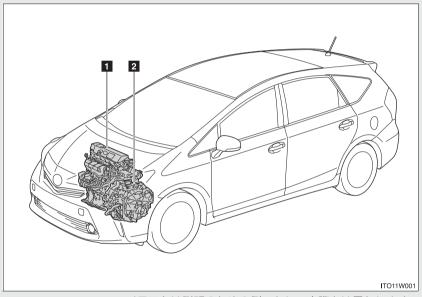
操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す・まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に　1

ハイブリッドシステムの特徴

プリウス α のハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減・クリーン化した、環境に配慮した技術となっています。

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン

2 電気モーター

■ **停車時・発進時・低速走行時**

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも、D または B で運転してください。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。(→P. 27)

■ **通常走行時**

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

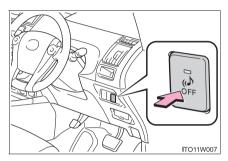
■ **急加速時**

アクセルペダルを大きく踏み込んだときは、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ **減速時・制動時(回生ブレーキ)**

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で車両接近通報装置をOFF にして消音することもできます。

OFF にするには、“パワー” スイッチが ON モードのとき、スイッチを押す

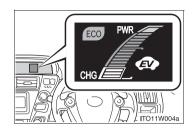
スイッチ上のインジケーターが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。“パワー” スイッチを ON モードにするごとに、車両接近通報装置は ON になります。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

ハイブリッドシステムの作動状況に応じて、インジケーターの表示が変化します。(→P. 173)

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●駆動用電池充電時

●暖房をかけたとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

●ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため、少なくとも 2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

●シフトポジションが N のときは、駆動用電池の充電が行われません。駐車・停車時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも D または B で運転してください。

■補機バッテリーの充電について

→P. 416

■**補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたときは**

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2、3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■**ハイブリッド車特有の音と振動について**

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。
ハイブリッドシステム始動前・始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●運転席ドアを開いたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムの作動音

●エンジンルームからの電気モーターの作動音（加速時の“キーン”音、減速時の“ヒューン”音）

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる駆動用電池からの音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッションから聞こえる“ コツコツ ”“ カタカタ ”という音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ブレーキペダルを操作したときに聞こえる、作動音やモーター音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●駆動用電池冷却用吸入口（→P. 32）から聞こえるファンの音

●エアコンの作動音（エアコンコンプレッサー、ブロワモーター）

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■車両接近通報一時停止スイッチ（→P. 26）のインジケーターが点滅したときは

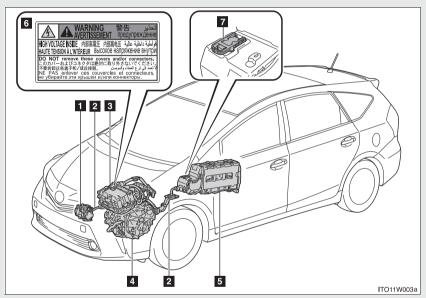
車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

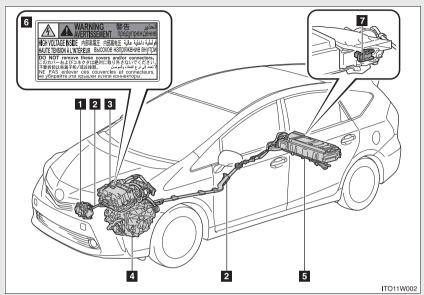
■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

7 人乗り車

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 エアコンコンプレッサー
2 高電圧ケーブル（オレンジ色）
3 パワーコントロールユニット・DC ／ DC コンバーター
4 電気モーター
5 駆動用電池
6 コーションラベル
7 サービスプラグ

5 人乗り車

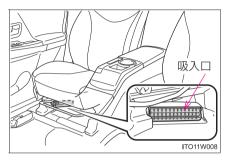
イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 エアコンコンプレッサー
2 高電圧ケーブル（オレンジ色）
3 パワーコントロールユニット・DC ／ DC コンバーター
4 電気モーター
5 駆動用電池
6 コーションラベル
7 サービスプラグ

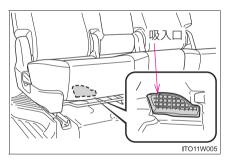
駆動用電池冷却用吸入口

駆動用電池冷却用の吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因になります。

7 人乗り車

ITO11W008

フロントシート下部（運転席側）に吸入口があります。

5 人乗り車

ITO11W005

セカンドシート下部（運転席側）に吸入口があります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 368）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約 7L です。車両の傾きによって給油量はかわります）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

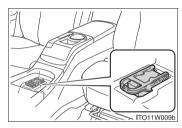
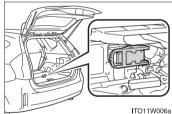
この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■**高電圧・高温について**

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●7人乗り車はコンソールボックス下部・5人乗り車はラゲージルーム下部にサービスプラグがあります。サービスプラグはトヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。

警告

■**事故が発生したときは**

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車する
停車時は、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止します。そのあとブレーキペダルからゆっくり足を離してください。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P. 357）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

警告

■**事故が発生したときは**

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

7 人乗り車：

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると酸性の蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

5 人乗り車：

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

■**駆動用電池について**

駆動用電池を不法に投棄または放置すると、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれた場合に、生命にかかわる感電事故などにつながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- 吸入口のまわりに荷物などを置いたりしないでください。
  吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。
- 吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
  駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
  誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

■ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→P. 160）

■ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→P. 173）

■ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどしゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチ（ A/C ）を OFF にしましょう。

余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。なお、設定温度の上げすぎなど必要以上の暖房を避けると、燃費向上につながります。

■ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

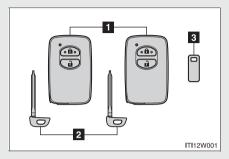
■ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。
また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

■ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

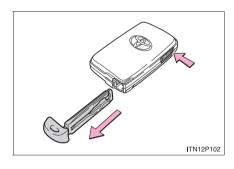
キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

1 電子キー

・ スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→P. 43）
・ ワイヤレス機能の作動 （→P. 58）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 411）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、メカニカルキーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 410）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

電子キーは精密機器です。次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビ・オーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

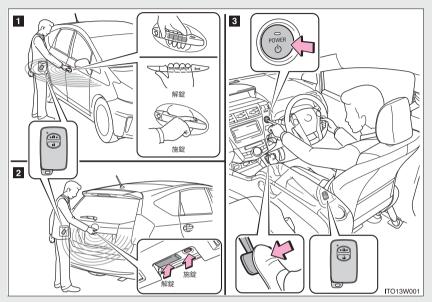
■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー&スタートシステム

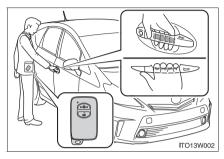
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。(必ず運転者が携帯してください)

1 ドアを解錠・施錠する　(→P. 44)

2 バックドアを解錠・施錠する
(前席&バックドアスマートドアロック装着車のみ:→P. 45)

3 ハイブリッドシステムを始動する(→P. 150)

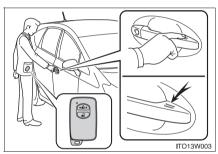
ドアの解錠・施錠

フロントドアハンドル※

ITO13W002

ハンドルを握って解錠する

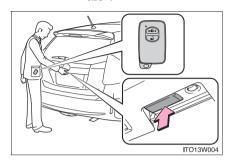
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

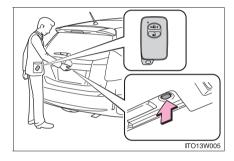
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

ITO13W003

ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

※ 運転席単独スマートドアロック装着車は運転席ドアハンドルのみで、前席＆バックドアスマートドアロック装着車は、運転席および助手席ドアハンドルで、ドアを解錠・施錠することができます。

バックドア（前席＆バックドアスマートドアロック装着車のみ）

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

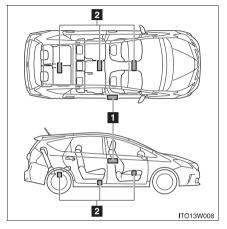
施錠操作後３秒間は解錠できません。

ロックスイッチを押して施錠する

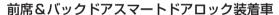
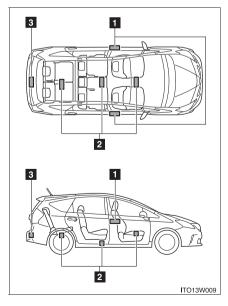
必ず施錠されたことを確認してください。

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置：7 人乗り車

運転席単独スマートドアロック装着車

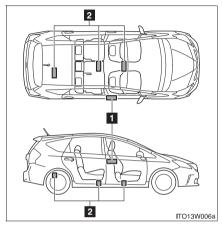
1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

前席＆バックドアスマートドアロック装着車

1 車外アンテナ

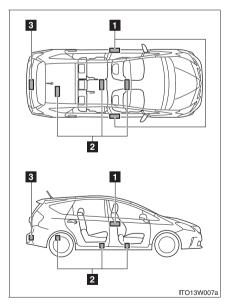
2 車内アンテナ

3 ラゲージルーム外アンテナ

■ アンテナの位置：５人乗り車

運転席単独スマートドアロック装着車

1 車外アンテナ

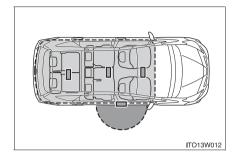
2 車内アンテナ

前席＆バックドアスマートドアロック装着車

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

3 ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）：7 人乗り車

運転席単独スマートドアロック装着車

ITO13W012

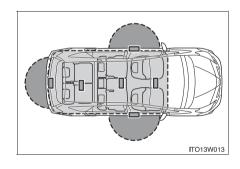
：ドアの施錠・解錠時

運転席ドアハンドルから周囲約70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：ハイブリッドシステム始動時、または“パワー”スイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

前席＆バックドアスマートドアロック装着車

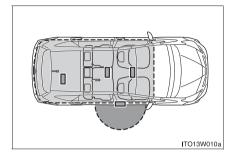
ITO13W013

：ドアの施錠・解錠時

フロントドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアのみ作動します）

：ハイブリッドシステム始動時、または“パワー”スイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）：５人乗り車

運転席単独スマートドアロック装着車

ITO13W010a

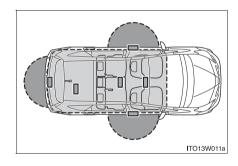
：ドアの施錠・解錠時

運転席ドアハンドルから周囲約70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：ハイブリッドシステム始動時、または“パワー”スイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

前席＆バックドアスマートドアロック装着車

ITO13W011a

：ドアの施錠・解錠時

フロントドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアのみ作動します）

：ハイブリッドシステム始動時、または“パワー”スイッチ切りかえ時

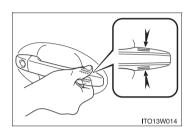
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは

ITO13W014

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■警告音と警告灯について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→P. 370)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と約 5 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	
	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	運転席ドアを閉める、または“パワー”スイッチを OFF にする
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトポジションがRで運転席ドアを開けた	運転席ドアを閉めるか、シフトポジションをＰにする、または“パワー”スイッチを OFF にする

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●前席＆バックドアスマートドアロック装着車では、14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 411）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話･コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●バックドアガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・ハイブリッドシステム始動時または“パワー”スイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・トノカバー（販売店オプション）の上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●車室内、または車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。（この設定を変更できます：→P. 434）

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車外の警告ブザーが鳴ることがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警告ブザーは鳴りやみます。

●ロックセンサーの表面に氷や雪・泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪・泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■**解錠時の留意事項**

- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■**長期間運転しないときは**

- 盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■**オートアラームについて（オートアラーム装着車）**

スマートエントリー＆スタートシステムで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 106）

■**システムを正しく作動させるために**

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠・解錠：→P. 411

●ハイブリッドシステムの始動：→P. 411

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐために次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 340

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P. 434）

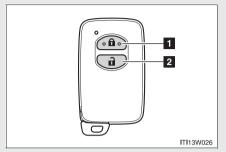
警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 46）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドアを施錠する

必ず施錠作動したことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■オートアラームについて(オートアラーム装着車)

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。(→P. 106)

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 52

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

→P. 411

■電池の消耗について

→P. 56

■電池が切れたときは

→P. 340

■カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 434）

ドア（フロントドア・リヤドア）

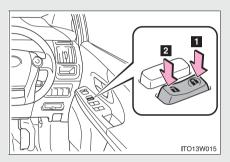
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

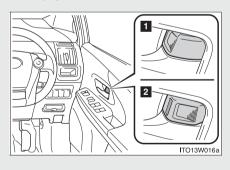
→P. 44

■ ワイヤレス機能

→P. 58

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバー

1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

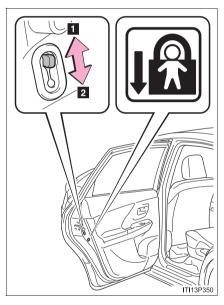
キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P. 411）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

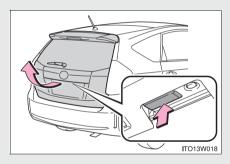
バックドアは次の方法で施錠・解錠できます。

■ バックドアの施錠・解錠

スマートエントリー＆スタートシステム
→P. 45

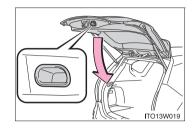
ワイヤレス機能
→P. 58

ドアロックスイッチ
→P. 60

■ 車外からバックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

知識

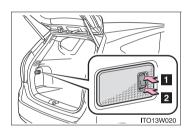
■バックドアを閉めるときは

ITO13W019

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。

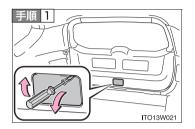
■ラゲージルームライト

スイッチを ON にしておくと、バックドアを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。

ITO13W020

1 OFF

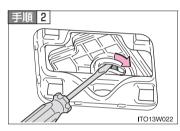
2 ON

■バックドアが開かないときは

バックドアのロックを車内から解除することができます。

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

レバーを押す

警告

■**走行中の警告**

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お子さまを乗せているときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

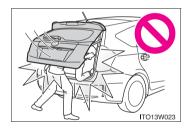
●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

ITO13W023

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

ITO13W024

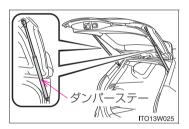
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

警告

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じ、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整*
（運転席のみ）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

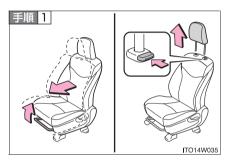
フラットシート

■ フラットシートにする前に

手順 1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジション（→P. 158）をPにします。

手順 2 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→P. 73）

■ フラットシートにするには

フロントシートをいちばん前まで移動させ（→P. 69）、ヘッドレストをはずす（→P. 83）

フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→P. 69）

手順 3 もとにもどすときは、逆の手順で操作する

シートをもとの位置にもどしたあとは、走行する前に必ずヘッドレストを取り付けてください。

警告

■**リクライニング調整について**

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

■**フラットシートについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中にフラットシートの操作をしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする

●シートに人が乗っている状態でフラットシートの操作をしない

●操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する

●お子さまに操作させない

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●フラットシートにした状態で人や荷物をのせて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

●操作後は、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する

●シートのあいだにシートベルトなどが挟み込まれていないか確認する

警告

■シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

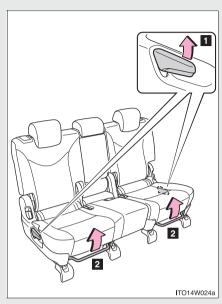
●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

●シートベルトを挟み込まないようにする

注意

■フラットシートについて

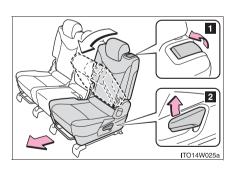
●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

セカンドシート

イラストは 7 人乗り車で代表しています。

1 リクライニング調整

2 前後位置調整

サードシートへの乗り降り（7人乗り車）

レバー（1 または 2 ）を引き上げ、背もたれを前に傾け、シートを前方に移動させる

乗り降りをしたあとは、シートを後方に動かし、背もたれを起こします。軽く前後にゆさぶり、シートが確実にロックされたことを確認してください。

セカンドシートの前倒しを行う前に

手順 1 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジション（→P. 158）をＰにします。

手順 2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する（→P. 69）

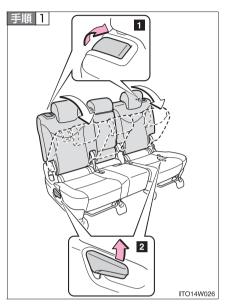
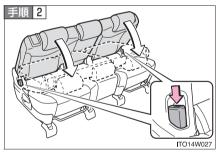
フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、セカンドシートの操作時にあたる場合があります。

手順 3 セカンドシート中央席用シートベルトを分離・格納する（→P. 88）

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

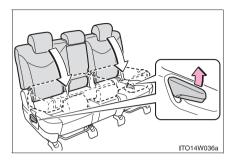
手順 4 セカンドシートのヘッドレストを下げる（→P. 83）

手順 5 セカンドシートのアームレストを引き出している場合は、格納する（装着車のみ：→P. 281）

セカンドシートの前倒し（7 人乗り車）

レバー（ 1 または 2 ）を引き上げ、背もたれを前方に傾ける

前倒しボタンを押す

背もたれが前に倒れます。軽く前後にゆさぶり、シートが確実にロックされたことを確認してください。

セカンドシートの前倒し（5 人乗り車）

ITO14W036a

レバーを引き上げる

もどすときは、背もたれを起こして固定します。

知識

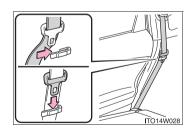
■助手席側シートの前後位置調整について（5 人乗り車）

ITI14P274

助手席側シートは、運転席側シートよりも前へスライドさせることができるため、ラゲージルームへの荷物の積み降ろしに便利です。

前側いっぱいまでスライドさせたときは、シートはロックされません。操作後はロックされる位置までもどし、確実に固定してください。

■シートベルトハンガー

ITO14W028

左右席のシートベルトを使用しないときは、シートベルトハンガーに格納することができます。

警告

■**セカンドシートを操作するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中にセカンドシートを操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

●シートに人が乗っている状態でセカンドシートを操作しない

●操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する

●お子さまに操作させない

●操作後は、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する

■**リクライニング調整について**

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

警告

■シートをもとにもどしたあとは

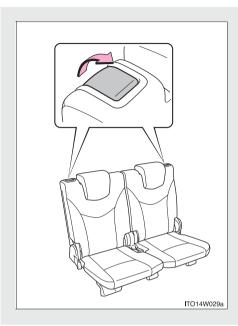
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する
- セカンドシート中央席用シートベルトを分離したときは、もとどおりに結合する（→P. 87）
- シートベルトハンガー（→P. 76）にシートベルトを格納していた場合、使用する前にもとどおりに取りはずしてあるか確認する

注意

■サードシートを前倒ししているときは（7 人乗り車）

シートの損傷を防ぐため、セカンドシートはサードシートにあたらないように調整してください。

サードシート（７人乗り車のみ）

リクライニング調整

サードシートの前倒しを行う前に

手順 1 車を安全な場所に駐車する

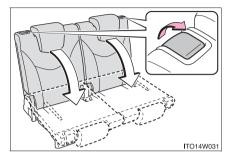
シフトポジションをＰにし（→P. 158）、しっかりとパーキングブレーキをかけます。（→P. 167）

手順 2 セカンドシートの位置・背もたれの角度を調整する（→P. 73）

セカンドシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、サードシートの操作時にあたる場合があります。

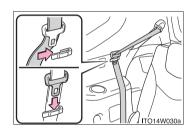
手順 3 ヘッドレストを下げる（→P. 84）

サードシートの前倒し

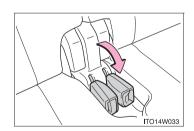
ITO14W031

レバーを引き上げ、背もたれを前に倒す

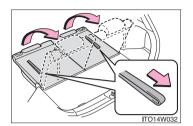
知識

■シートベルトハンガー

ITO14W030a

シートベルトを使用しないときは、シートベルトハンガーに格納することができます。

■シートベルトバックルの格納

ITO14W033

シートベルトを使用しないときは、バックルを格納することができます。

■シートバックストラップ

前倒ししたサードシートをラゲージルーム側から起こすことができます。

警告

■サードシートを操作するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中にサードシートを操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをＰにする

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

●シートに人が乗っている状態でサードシートの操作をしない

●操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する

●お子さまに操作させない

●操作後は、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する

■リクライニング調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

警告

■シートをもとにもどしたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

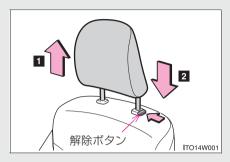
- ●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- ●シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する
- ●シートベルトハンガー（→P. 80）にシートベルトを格納していた場合、使用する前にもとどおりに取りはずしてあるか確認する
- ●シートベルトバックルを格納していた場合、使用する前にもとにもどす

注意

■サードシートを前倒ししているときは

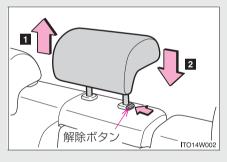
→P. 78

ヘッドレスト

フロントシート

1 上げる

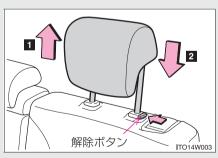
2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

セカンドシート中央席

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

セカンドシート左右席

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

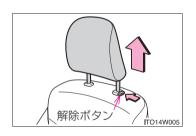
サードシート（7 人乗り車のみ）

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■セカンドシート・サードシート*のヘッドレストの使用について

ITO14F026

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。
また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

⚠警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

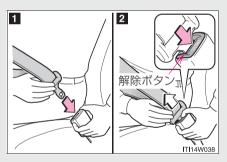
ITO14W008

- 肩部ベルトを肩に十分かける

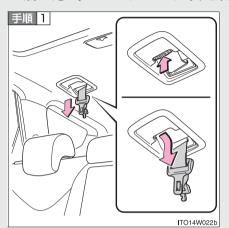
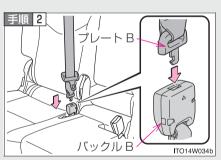
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

■ 着け方・はずし方（セカンドシート中央席以外）

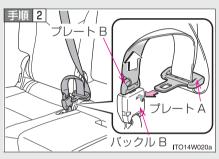
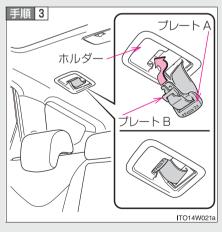
ITI14W038

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

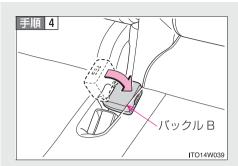
2 ベルトを解除するには、プレートに手を添えて解除ボタンを押す

■ 着け方（セカンドシート中央席）

図の部分を押して固定をはずし、シートベルトを引き出す

“カチッ” と音がするまでプレート B をバックル B に挿し込み、結合する

“カチッ” と音がするまでプレート A をバックル A に挿し込み、ベルトを固定する

■ はずし方（セカンドシート中央席）

バックルAの解除ボタンを押して、ベルトを解除する

プレートAなどでバックルBのボタンを押し、プレートBを分離する

プレートA、Bを重ねて、ホルダーに挿し込む

確実に固定されるよう、図のようにしっかりと挿し込みます。

バックル B を格納する

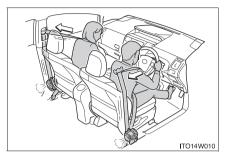
■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

ITO14W010

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車のフロント席）

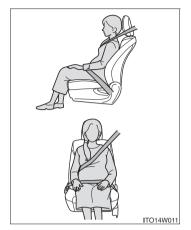
プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。(→P. 222)

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 86）
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 120)

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 86)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

- セカンドシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレートBとバックルBを結合する
- セカンドシート左右席・サードシート（7人乗り車のみ）のシートベルトを使用するときは、シートベルトがシートベルトハンガー（→P. 76, 80）にかかっていないことを確認する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

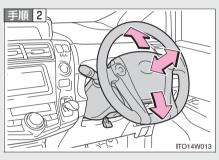
●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

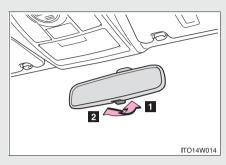
■走行中の警告

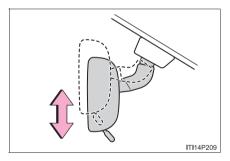
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時
2 防眩時

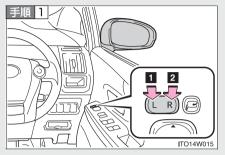
上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

⚠ 警告

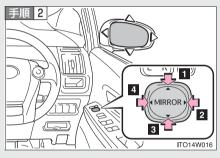
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

1 左

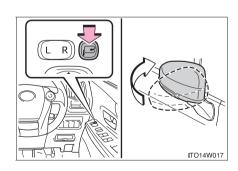
2 右

ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは

スイッチを押して、ドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 250）

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

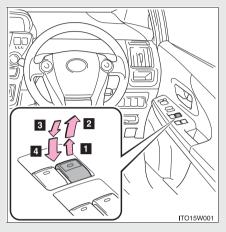
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

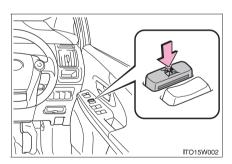
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※ 途中で停止するときは､スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと､運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“ パワー ” スイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“パワー” スイッチを ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

● お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能**

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

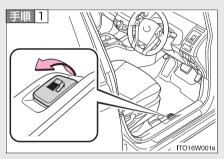
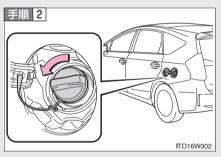
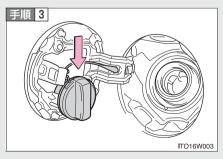
● 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

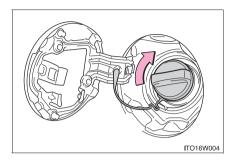
給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

“パワー” スイッチを OFF にして、ドアとドアガラスを閉めてください。

■ 給油口の開け方

オープナーを上げて、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

■燃料タンク容量（参考値）

45 L

警告

■**給油について**

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
  除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
  キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
  再び帯電する可能性があります。

■**給油時の注意**

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■**キャップ交換時の警告**

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■**給油するときは**

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●ノッキングが発生する

●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

“パワー”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずハイブリッドシステムを始動できないことがあります。(→P. 52)

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム*

侵入を検知した場合、音と光で警報します。

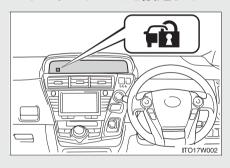
■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

● 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき

● ボンネットが開けられたとき

G-BOOK mX Pro をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ G-BOOK オンラインサービス／ G-Security」を参照してください。

■ オートアラームを設定するには

ドア･ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

次のいずれかを行ってください。

● ドアを解錠する

● “パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動する(数秒後に解除･停止します)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■メンテナンスについて

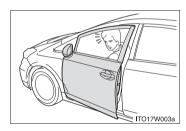
オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき

- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。

●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、補機バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■カスタマイズ機能

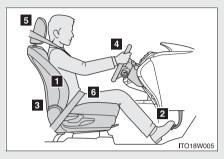
メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P. 434)

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。

1. まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→P. 69 ）
2. シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→P. 69）
3. 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→P. 69）
4. SRS　エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→P. 94）
5. ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 83）
6. シートベルトが正しく着用できる（→P. 86）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

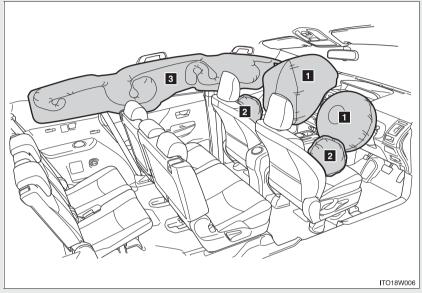
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

イラストは 7 人乗り車で代表しています。

フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような、衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

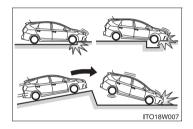
●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき
(SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ)

SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値(約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値)以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

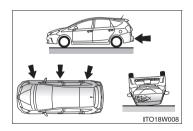
ITO18W007

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき(フロント SRS エアバッグ)

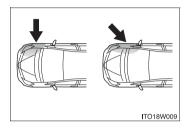
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

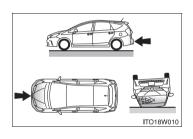
ITO18W008

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ)

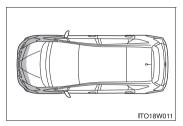
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

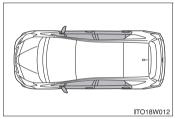
SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

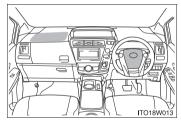
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

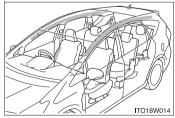
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

ITO18W011

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITO18W012

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITO18W013

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

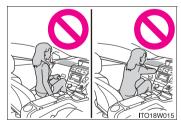
ITO18W014

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシート（7 人乗り車のみ）に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 129)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠警告

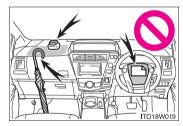
■SRS エアバッグについて

ITO18W017

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

ITO18W018

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

ITO18W019

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

ITO18W020

●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く →P. 398）

警告

■SRS エアバッグについて

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- ●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　　：9～18kg
グループⅡ　　：15～25kg
グループⅢ　　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート

ITO18W001

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

チャイルドシート

ITO18W002

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

ジュニアシート

ITO18W003

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	セカンドシート		サードシート（7人乗り車のみ）
	助手席	左右席	中央席	左右席
0（10kg まで）	×	U	U	U
0^+（13kg まで）	×	U	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF うしろ向き×	U	U	U
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	U	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

× ：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1 ※
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1 ※
	D	ISO/R2	IL2 ※
	C	ISO/R3	IL2 ※
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF ※ , IL2 ※
	B1	ISO/F2X	IUF ※ , IL2 ※
	A	ISO/F3	IUF ※ , IL2 ※
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正　NEO　G-Child　ISO baby」，「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

×　：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※: 子供専用シートを取り付ける場合には、セカンドシートを次のように調整してください。

・ヘッドレストを取りはずす

・シートの位置をいちばんうしろに下げる

・シートの背もたれを子供専用シートが取り付け可能な位置まで倒し、子供専用シートを取り付ける。そのあと子供専用シートが安定する位置まで背もたれを起こす

ISOFIX 子供専用シートのリスト

<table>
<tr><th>質量グループ</th><th>サイズ等級</th><th>固定具</th><th>ISOFIX 子供専用シート</th><th>カテゴリー</th></tr>
<tr><td rowspan="2">0
(10kg まで)</td><td>E</td><td>ISO/R1</td><td>トヨタ純正 NEO G-Child
ISO baby</td><td>準汎用</td></tr>
<tr><td>E</td><td>ISO/R1</td><td>トヨタ純正 NEO G-Child
ISO leg</td><td>準汎用</td></tr>
<tr><td rowspan="4">0+
(13kg まで)</td><td>E</td><td>ISO/R1</td><td>トヨタ純正 NEO G-Child
ISO baby</td><td>準汎用</td></tr>
<tr><td>E</td><td>ISO/R1</td><td rowspan="3">トヨタ純正 NEO G-Child
ISO leg</td><td rowspan="3">準汎用</td></tr>
<tr><td>D</td><td>ISO/R2</td></tr>
<tr><td>C</td><td>ISO/R3</td></tr>
<tr><td rowspan="3">I
(9 ～ 18kg)</td><td>B</td><td>ISO/F2</td><td rowspan="3">トヨタ純正 NEO G-Child
ISO leg</td><td rowspan="3">準汎用</td></tr>
<tr><td>B1</td><td>ISO/F2X</td></tr>
<tr><td>A</td><td>ISO/F3</td></tr>
</table>

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択・使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 122) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 123) を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1):体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
(例 2):体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1):質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
(例 2):質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 124) で指定されている製品を使用してください。

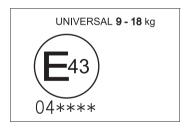
子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 129）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

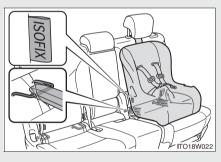
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に、容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

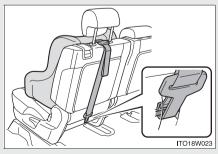
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシート(7人乗り車のみ)に取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取り扱い説明書に従ってください。

ITO18W021

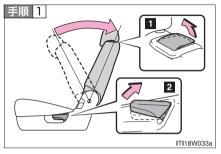
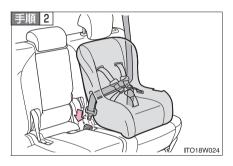
シートベルトによる取り付け
(→P. 130)

ITO18W022

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 132)

セカンドシートの左右席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

ITO18W023

トップテザーアンカー
(→P. 133)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーは、セカンドシートの左右席に装備されています。

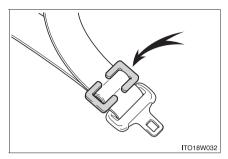
シートベルトで固定する

背もたれの角度を調整する

レバー（1 または 2）を引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。
（→P. 73 ,79）

イラストは7人乗り車のセカンドシートで代表しています。レバー 1 は 7 人乗り車のみ装着されています。

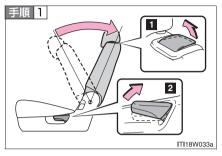
チャイルドシートにシートベルトを取り付け※、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

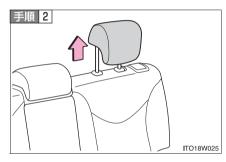
※チャイルドシートがヘッドレストにかかる場合は、ヘッドレストを上げるか、取りはずしてください。
（→P. 83）

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

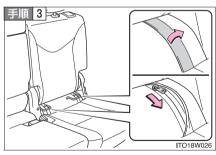
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

背もたれの角度を調整する

レバー（1 または 2）を引きながら、いったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。
（→P. 73）

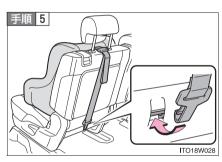
イラストは 7 人乗り車で代表しています。レバー 1 は 7 人乗り車のみ装着されています。

ヘッドレストを上げる
（→P. 83）

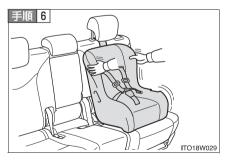
チャイルドシートがヘッドレストにかかる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。

ファスナーを下げ、固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

警告

■**チャイルドシートについて**

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシート（7 人乗り車のみ）に取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが表示されています。併せて参照してください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P. 150

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→P. 158）

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。（→P. 169）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 167）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P. 161）

■ 駐車する

手順 1 車を完全に停止させる

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 167）

手順 3 シフトポジションを P にする（→P. 161）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。（→P. 169）

手順 4 “パワー” スイッチを OFF にして、ハイブリッドシステムを停止する

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

手順 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを D にする

手順 2 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。(→P. 220)

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 38 の 「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

警告

■**発進するときは**

ブレーキペダルをしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを操作してください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置を ON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトポジションを P にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを D にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止する事ができないような緊急時は、P. 426 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 163）

警告

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトポジションがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトレバーの操作後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

警告

■**停車するときは**

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間 READY インジケーターが点灯したままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■**駐車するときは**

●必ずパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏んだときに急発進するおそれがあります。また、車から離れるときは、必ずハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。

警告

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
  - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムを作動させたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●換気が悪い場所ではハイブリッドシステムを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するときは

必ず“パワー”スイッチを OFF にしてください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ブレーキをかけるときは

- ●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 注意

■運転中は

- ●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- ●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

- ●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 372, 387 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジンオイル・トランスミッションフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水により P ポジション制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。Pから他のシフトポジションに切りかえられない場合は、パーキングロックにより、前輪が固定されているため、他車にロープなどでけん引してもらうことはできません。その場合は、前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げて運搬してください。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動または“パワー”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ ハイブリッドシステム始動のしかた

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 ブレーキペダルをしっかり踏む

“パワー”スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションがＮと表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。必ずPにしてから始動してください。(→P. 161)

手順 3

“パワー”スイッチを押す

“パワー”スイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。
完全にハイブリッドシステムが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

手順 4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。
READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。
READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

■ ハイブリッドシステム停止のしかた

手順 1 車両を完全に停止させる

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 167）

手順 3 シフトポジションをPにする（→P. 161）

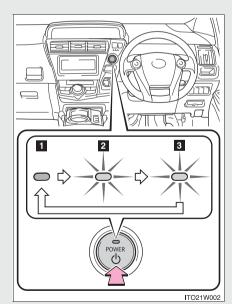
シフトポジション表示灯がPであることをメーターで確認します。（→P. 169）

手順 4 “パワー”スイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止します。

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離して“パワー”スイッチ上のインジケーターが消灯していることを確認する

■ “パワー”スイッチ切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“パワー”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 ONモード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしたままにしておくと、“パワー”スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、駆動用電池付近から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 56

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 52

■ご留意いただきたいこと

→P. 53

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P. 105）

■“パワー”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P. 362

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 340

■“パワー”スイッチの操作について

●“パワー”スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

●“パワー”スイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。“パワー”スイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

→P. 163

■P ポジション制御システムについて

P ポジション制御システムが故障すると、“パワー”スイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると、スイッチを OFF にすることができます。
システムが故障した場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■メーター表示について

“パワー”スイッチを OFF にすると、各表示が次のように消えます。

●約 2 秒後にシフトポジション表示灯が消えます。

●約 30 秒後にオドメーターや時計などが消えます。

（30 秒間経過する前でも、ドアを施錠すると各表示がすぐに消えます）

警告

■ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、“パワー”スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。
ただし、緊急時以外は走行中に“パワー”スイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

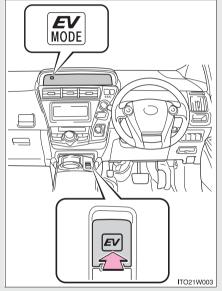
●ハイブリッドシステム停止中に、“パワー”スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“パワー”スイッチが OFF になっていません。“パワー”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■“パワー”スイッチの操作について

“パワー”スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、エンジン音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。(→P. 26)

EV ドライブモードの ON･OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行(ガソリンエンジンと電気モーターによる走行)にもどります。

知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のとき※は EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときは、ブザーで運転者にお知らせします。

● ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

● ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

● ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

● 駆動用電池の充電量が低いとき
メーターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P. 169）

● 車速が高いとき

● アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

● フロントデフロスターを使用しているとき

※状況により、上記の他にも EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

●駆動用電池の充電量が低下したとき

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速約 55km/h 以下で、数百 m から 2km 程度です。（走行可能距離は、駆動用電池の充電量やハイブリッドシステムの状況によって異なります）

■走行モード（→P. 160）の切りかえについて

EVドライブモードとエコドライブモード／パワーモードは併用することができます。
ただし､パワーモードとの併用時は EV ドライブモードが自動解除されやすくなることがあります。

■燃費について

プリウス α は、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

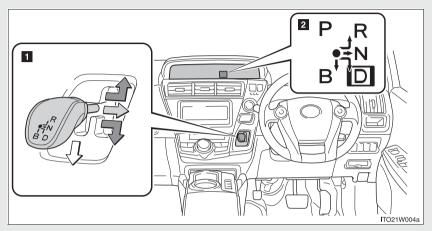
⚠警告

■EV ドライブモードについて

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。特に車両接近通報装置を OFF にしている場合は、十分注意して運転してください。

トランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方

1 シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。

D または R に切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

Nに切りかえるときは､右にスライドさせ､しばらく保持します。

シフトポジションが D のときのみ、B に切りかえが可能です。

● シフトレバーを操作したあとは、常にもとの位置にもどります。

P から N・D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

2 シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションに連動して、シフトポジション表示灯上の枠の表示位置がかわります。

D・B 以外のときは、シフトポジション表示灯の B 方向への矢印と B 表示が消灯します。

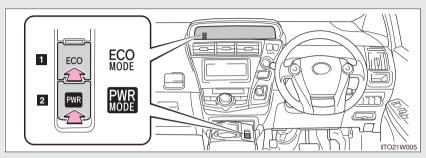
シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件に合わせて次のモードを選択できます。

1 エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房・冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

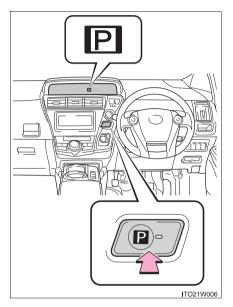
スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。

2 パワーモード

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スイッチを押すと、メーター内のパワーモード表示灯が点灯します。

P ポジションスイッチ

■ シフトポジションを P に切りかえるときは

車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションを P にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。
シフトポジション表示灯で、P の位置の枠が点灯していることを必ず確認してください。

■ P から他のシフトポジションに切りかえるときは

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- Pから直接、シフトポジションをBに切りかえることはできません。

知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは燃費向上を図るため、エアコンの風量や暖房／冷房の作動を抑制しており、暖房／冷房の効きが弱いと感じられることがあります。
効きを強くしたいときは、風量を上げるかエコドライブモードを解除してください。

■シフトポジションについて

- “パワー”スイッチがOFFのときはシフトポジションの切りかえはできません。
- “パワー”スイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。シフトレバーを操作して D または R の位置で保持したときも N に切りかわります。
- READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても P から他のシフトポジションに切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。
- D 以外から直接、B に切りかえることはできません。

また、下記の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N に切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえるか、P ポジションスイッチを押してください。

- シフトポジションの切りかえを無効にするとき
  - ・ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作して、P から他のシフトポジションに切りかえようとした
  - ・シフトレバーを操作して、シフトポジションを P または N から B に切りかえようとした

●自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき

・ 走行中に、P ポジションスイッチを押した※1
・ 車両が前進しているときにシフトレバーを操作して、シフトポジションを R に切りかえようとした※2
・ 車両が後退しているときにシフトレバーを操作して、シフトポジションを D に切りかえようとした※3
・ シフトレバーを操作して、シフトポジションを R から B に切りかえようとした

※1 極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

※2 低速走行時は、R に切りかわることがあります。

※3 低速走行時は、D に切りかわることがあります。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトポジションが N でアクセルペダルを踏んだとき

ブザーが鳴り、N であることを運転者に知らせます。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

“パワー” スイッチが ON モードの状態でシフトポジションが P 以外のとき、車両を完全に停止させ “パワー” スイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわり、“パワー” スイッチが OFF になります。

■シフトポジションが P から切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P. 413 を参照してください。

■エンジンブレーキについて

●高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

●強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。

■エコドライブモード／パワーモードを解除するときは

●再度スイッチを押します。なお、”パワー”スイッチを OFF にするとパワーモードは自動的に解除されますが、エコドライブモードはスイッチを押して解除するまで、”パワー”スイッチを OFF にしても自動では解除されません。

●エコドライブモードのときにパワーモードスイッチを押す、またはその逆の操作を行うと、あとから押したスイッチのモードに切りかわります。

■EV ドライブモード時の走行モードの切りかえについて

→P. 157

■補機バッテリーを脱着したときは

→P. 416

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトレバーについて

シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■P ポジションスイッチについて

車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■駆動用電池の充電について

シフトポジションが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■P ポジション制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、P ポジション制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- メーターに「P ロック異常　駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて下さい。」と表示されたとき（→P. 364）
- P ポジション制御システム警告灯が点灯したとき
- シフトポジション表示灯の選択枠以外が全て点灯したとき
- シフトポジション表示灯が点灯しないとき

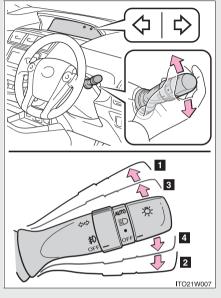
■シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

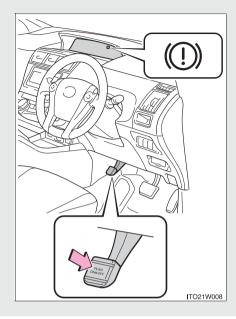
知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 361

■冬季のパーキングブレーキの使用について

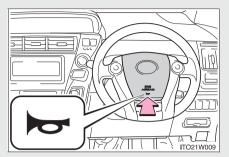
「寒冷時の運転」（→P. 233）の記載を参照してください。

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [horn symbol] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 94）

計器類

“パワー”スイッチを ON モードにすると計器類が表示されます。

1 時計

→P. 271

2 オドメーター／トリップメーター

オドメーター　　　：走行した総距離を表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

3 ドライブモニター

瞬間燃費・平均燃費・航続可能距離を表示します。

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションを表示します。

6 駆動用電池残量表示

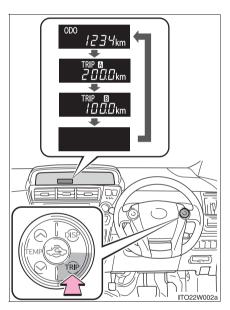
現在の駆動用電池残量を 8 段階で表示します。

7 ハイブリッドシステムインジケーター

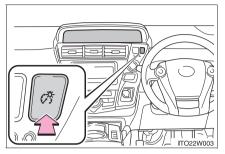
ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

8 スピードメーター

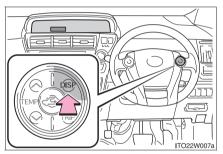
車両の走行速度を示します。

オドメーター／トリップメーター表示の切りかえ

ハンドルにある TRIP スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押したまま保持すると、走行距離を 0 にもどします。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費もリセットされます。(→P. 172)

メーター照度調整スイッチ

車幅灯が点灯中で、かつ周囲が暗いとき、スイッチを押すたびに、メーター表示の明るさが切りかわります。

メーター表示は、4 段階に明るさを調整できます。

ドライブモニターの表示項目切りかえ

項目を切りかえるには、ハンドルにあるDISPスイッチを押します。

ドライブモニターの表示項目

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

AVG A 23.5 km/L

オドメーター／トリップメーターのそれぞれで平均燃費を表示します。

- オドメーター表示中、またはオドメーター／トリップメーターが非表示のときには、リセットしてからの平均燃費が表示されます。
- トリップメーター表示中には、リセットしてからのトリップメーターの距離に連動した平均燃費が表示されます。

オドメーター表示時：リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。
トリップメーター表示時：リセットするには、平均燃費表示中に TRIP スイッチを 1 秒以上押します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

RANGE 123 km

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
  給油の際は“パワー”スイッチを OFF にしてください。万一、“パワー”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

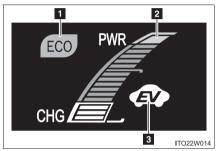
■ セッティング画面

SET

ハイブリッドシステムインジケーターの表示項目の設定ができます。(→P. 175)

ハイブリッドシステムインジケーター

アクセル操作の状況や、ハイブリッドシステムの作動状況に応じて、インジケーターの表示が変化します。このインジケーターの状態を確認することで、より環境に配慮した走行が可能となります。

■各アイコン類の名称・意味

1 エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているときに点灯します。

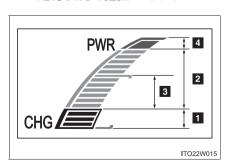
2 ハイブリッドシステムインジケーター

下記の「ハイブリッドシステムインジケーターの見方」を参照してください。

3 EV ドライブインジケーター

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに点灯します。

■ハイブリッドシステムインジケーターの見方

インジケーターが、現在どのエリアにあるかを確認することで、車両の走行状況を把握できます。

1 チャージエリア

2 エコエリア

3 ハイブリッドエコエリア

4 パワーエリア

インジケーターが各エリアにあるときの走行状況は、次のとおりです。

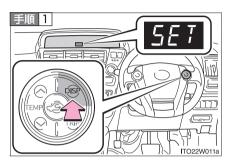
ハイブリッドシステムインジケーターの状態	画面表示※ 1
チャージエリアにあるとき 回生ブレーキ機能（→P. 25）により、エネルギーを回収して駆動用電池を充電している状態※ 2 を示します。	ECO PWR CHG
エコエリアにあるとき 環境に配慮した走行をしている状態を示します。	ECO PWR CHG
ハイブリッドエコエリアにあるとき ガソリンエンジンの動力を使用しない状況※ 3 を多く含む状態を示します。	ECO PWR CHG
パワーエリアにあるとき 全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。	PWR CHG

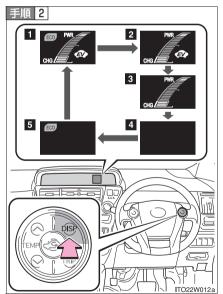
※ 1 画面は説明のための例であり、実際の表示と異なる場合があります。

※ 2 表示状態は目安であり、実際とは異なる場合があります。

※ 3 ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

ハイブリッドシステムインジケーターの設定変更

DISP スイッチを操作して、ハイブリッドシステムインジケーターの表示項目を変更することができます。安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。

DISP スイッチを押してドライブモニターにセッティング画面を表示させたあと、DISP スイッチを 1 秒以上押し続ける

SET 表示とハイブリッドシステムインジケーターが点滅します。

点滅中に DISP スイッチを押して表示項目を選択する

表示させる項目が点滅します。

1 すべて表示
2 ハイブリッドシステムインジケーターと EV ドライブインジケーターを表示
3 ハイブリッドシステムインジケーターのみを表示
4 すべて非表示
5 エコドライブインジケーターランプのみ表示

手順 3 DISP スイッチを 1 秒以上押し続け、設定を終了する

DISP スイッチを 1 秒以上押し続けて設定を終了しなかったり、約 10 秒間何も操作しないでいると、設定は変更されずにもとの画面にもどります。

知識

■エコドライブインジケーターランプについて

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

- ●シフトポジションが D 以外のとき
- ●走行モードがパワーモード、または EV ドライブモードのとき（→P. 155, 160）
- ●車速が約 100km/h 以上のとき

エコドライブインジケーターランプの表示／非表示を変更することができます。（→P. 175）

■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の充電量はハイブリッドシステムによって自動制御されています。そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・ガソリンエンジンによる発電が行われても、駆動用電池の残量表示が最大（レベル 8）まで到達しないことがありますが、異常ではありません。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■メーター照度について

周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブモニターの平均燃費と航続可能距離はリセットされます。

注意

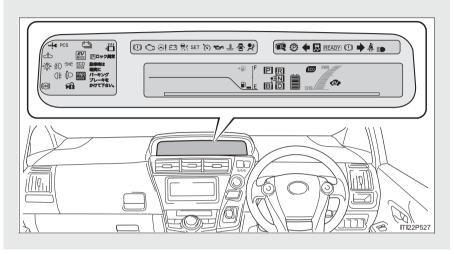
■**ハイブリッドシステムの損傷を防ぐために**

高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。(→P. 420)

■**低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

表示灯／警告灯

メーター・インストルメントパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

■表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 166）

※
エコドライブインジケーターランプ（→P. 173）

尾灯表示灯（→P. 181）

ECO MODE 表示灯（→P. 160）

ヘッドライト上向き表示灯（→P. 182）

パワーモード表示灯（→P. 160）

フロントフォグライト表示灯*（→P. 186）

（緑色）
クルーズコントロール表示灯*／定速制御モード表示灯*（→P. 196, 201）

リヤフォグライト表示灯*（→P. 187）

（緑色）
車間制御モード表示灯*（→P. 201）

セキュリティ表示灯（→P. 105, 106）

SET 表示灯*（→P. 196, 201）

READY インジケーター（→P. 150）

※
（点滅）
スリップ表示灯（→P. 216, 220）

EV ドライブインジケーター（→P. 173）

※
PCS
（点灯または速い点滅）
PCS 警告灯*（→P. 222）

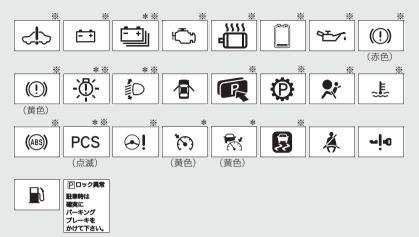
EV MODE
EV ドライブモード表示灯（→P. 155）

シフトポジション表示灯（→P. 169）

※ 作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯・警告メッセージ

万一のシステム異常などを警告します。（→P. 361）

※　作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

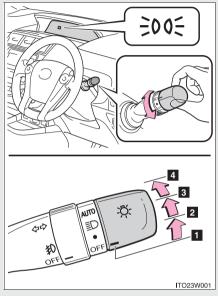
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

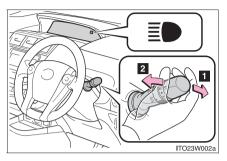
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

1. 消灯
2. 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
3. 上記ライトとヘッドライトを点灯
4. ヘッドライト・車幅灯などを自動点灯・消灯
（“パワー”スイッチが ON モードのとき）

ハイビームにする

ITO23W002a

1. ライト点灯時ハイビームに切りかえ

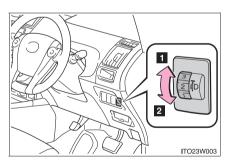
   レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2. レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

   ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

ITO23W003

1. 上向きに調整
2. 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

7 人乗り車

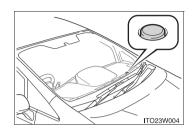
乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	3
全乗員	ラゲージルーム満載時	3.5
運転者	ラゲージルーム満載時	5
運転者と助手席乗員とサードシート乗員	なし	2

5 人乗り車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	3.5
運転者	ラゲージルーム満載時	5

知識

■ライトセンサー

ITO23W004

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。
また、エアコン作動のさまたげとなります。

■ライト消し忘れ防止機能

“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてライトが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“パワー”スイッチを ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■オートレベリングシステム（LED ヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 434）

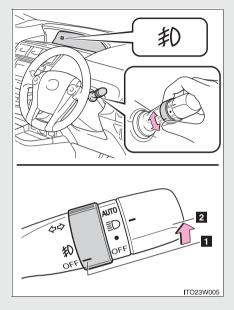
⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

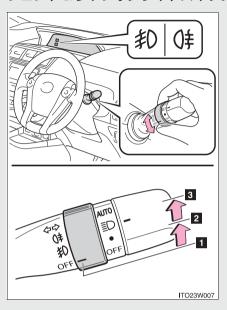
フォグライトスイッチ*

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

フロントフォグライトスイッチ

1 消灯する

2 点灯する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロント＆リヤフォグライトスイッチ

1 消灯する

2 フロントフォグライトを点灯する

3 フロント＆リヤフォグライトを点灯する

手を離すと　　の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

知識

■点灯条件

● ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

● フロント＆リヤフォグライト装着車のリヤフォグライトは、フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

● リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

● 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

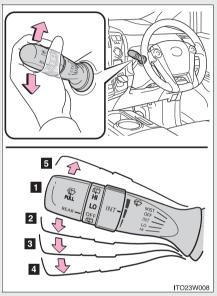
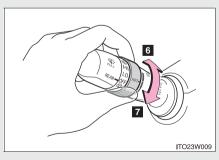
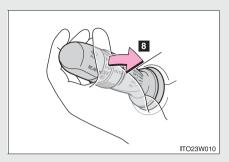
注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

“ INT ” を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

1 停止（OFF）
2 間欠作動（INT）
3 低速作動（LO）
4 高速作動（HI）
5 一時作動（MIST）

6 間欠ワイパーの作動頻度（減）
7 間欠ワイパーの作動頻度（増）

8 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

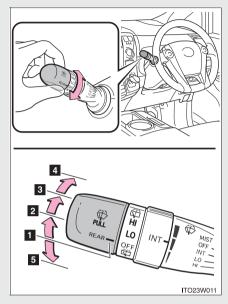
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーの端をまわしてワイパーの作動を選択します。

ITO23W011

1 停止（OFF）
2 間欠作動（LO）
3 通常作動（HI）
4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“ パワー ” スイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

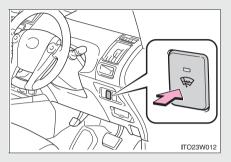
■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

フロントワイパーデアイサー＊

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ON ／ OFF を切りかえる

スイッチ上のインジケーターが点灯します。フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

警告

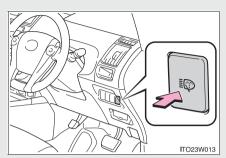
■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部、および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヘッドライトクリーナー＊

ヘッドライトにウォッシャー液を噴射します。

ITO23W013

スイッチを押してヘッドライトを洗浄する

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードでヘッドライトが点灯しているとき

注意

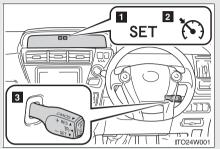
■ウォッシャー液が出ないときは

ヘッドライトクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

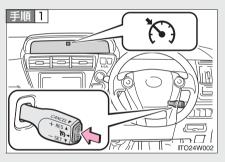
クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

1 セット表示灯

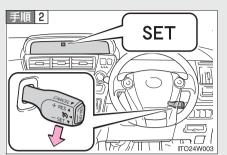
2 クルーズコントロール表示灯

3 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

“ ON-OFF ”スイッチを押して、システムを ON にする

クルーズコントロール表示灯が点灯します。

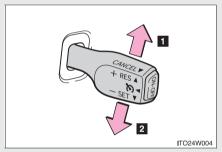
OFF にするには再度“ ON-OFF ”スイッチを押します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

SET 表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度をかえる

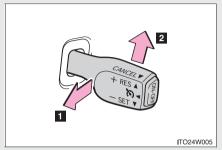
希望の速度になるまでレバーを操作します。

1 速度を上げる

2 速度を落とす

次のように設定速度を調整できます。

微調整　：レバーを軽く操作して手を離すと、約 1.6km/h ずつ調整できます。

大幅調整：レバーを保持すると、手を離すまで連続して調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。
ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D のとき設定できます。

●速度は約 40 ～ 約 100km/h の範囲で設定できます。

■速度設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定速度に戻ります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定速度を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
このとき、設定速度は消去されます。

●速度が約 40km/h 以下になった
このとき、設定速度は消去されます。

●VSC が作動した

■定速走行中にクルーズコントロール表示灯が点滅したときは

“ ON-OFF ” スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、“ ON-OFF ”スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

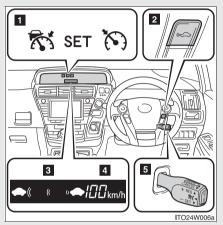
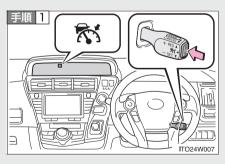
●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定速度以上になることがあります。

●車両けん引時

レーダークルーズコントロール＊

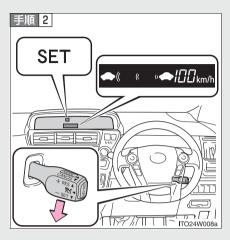
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

1 表示灯
2 車間距離切りかえスイッチ
3 車間距離表示
4 設定速度
5 レーダークルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する（車間制御モード）

“ ON-OFF ”スイッチを押して、システムを ON にする

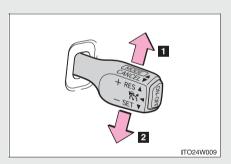
車間制御モード表示灯が点灯します。

OFF にするには再度“ ON-OFF ”スイッチを押します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

SET 表示灯が点灯します。
レバーを離したときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度をかえる

希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

1 速度を上げる
2 速度を落とす

車間制御モードでは、次のように設定速度を調整できます。

微調整　：レバーを軽く操作して手を離すと、約 1km/h ずつ調整できます。

大幅調整：レバーを保持すると、約 0.75 秒ごとに約 5km/h ずつ調整できます。

定速制御モード（→P. 207）では、次のように設定速度を調整できます。

微調整　：レバーを軽く操作して手を離すと、約 1.6km/h ずつ調整できます。

大幅調整：レバーを保持すると、手を離すまで連続して調整できます。

■ 車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえる

1 長い

2 中間

3 短い

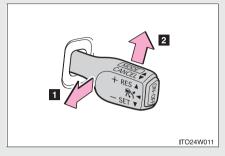
“パワー”スイッチが ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（80km/h で走行している場合）
なお、速度に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

■ 制御を解除する・復帰させる

1 解除するには、レバーを手前に引く

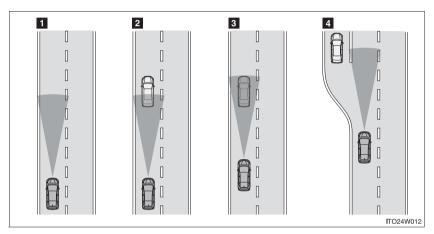
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。
ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。

1 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：
設定した速度より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：
設定した速度より遅い先行車に追従するとき

先行車の速度変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：
設定した速度より遅い先行車がいなくなったとき

設定速度までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

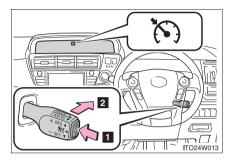
追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。

1 “ ON-OFF ”スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度“ ON-OFF ”スイッチを押します。

2 定速制御モードに切りかえる（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、定速制御モード表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードに戻すには、再度レバーを前方に約 1 秒間押したまま保持します。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

“ パワー ” スイッチを OFF にし、再度“ パワー ” スイッチを ON モードにした場合は、自動的に車間制御モードに戻ります。

設定速度をかえる：→P. 202

制御を解除する・復帰させる：
→P. 204

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D のとき設定できます。

●速度は約 50 ～ 約 100km/h の範囲で設定できます。

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定速度以下になることもあります。

■設定速度について

車両状況および走行環境によっては設定速度を維持できない場合があります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

●速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

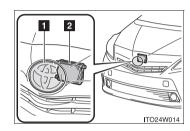
次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
このとき、設定速度は消去されます。

●速度が約 40km/h 以下になった
このとき、設定速度は消去されます。

●VSC が作動した

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります）
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）は解除されます。
（定速制御モードは使用できます。）

1 グリルカバー
2 レーダーセンサー

■レーダークルーズコントロールの表示灯・警告コード・警告ブザーについて

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告コード・警告ブザーで注意をうながします。

メーターに表示される警告コードは次の状態を示しています。

警告コード・警告灯	警告内容	対処方法
E1 （黄色）	レーダークルーズコントロールのセンサー部の汚れ、氷などの付着	汚れおよび氷などを取り除く
E2 （黄色）	レーダークルーズコントロールの車間制御の測定不可	システムが悪天候と判断したため、使用できません
E3 （黄色）	レーダークルーズコントロールシステムの異常	“ ON-OFF ” スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください

それぞれの対処方法に従って処置し、システムが正常に作動することを確認してください。
処置を行っても、同じ警告コードが表示されるときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは“ ON-OFF ”スイッチでシステムを OFF にしてください。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定速度以上になることがあります。

●高速道路の出入り口

●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●警報がひんぱんに鳴るとき

●車両けん引時

警告

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 206）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●停車中の車がいるとき

●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

●先行車が急ブレーキをかけた場合

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

●純正品以外の部品に交換しない

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

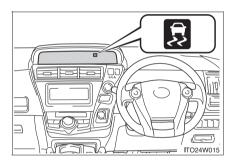
→P. 220

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 222

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキを強く踏んだり、くり返し踏んだとき、およびハイブリッドシステム停止後 1 ～ 2 分経過時に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

→P. 368

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速約 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの解除条件

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

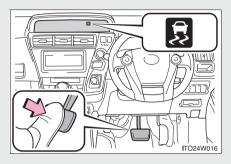
■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。(→P. 431)
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面での発進時に、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

車両が完全に停止している状態で、さらにブレーキペダルを踏み込むとヒルスタートアシストコントロールは作動します。

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

●次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。

・シフトポジションがＰ以外のとき
・パーキングブレーキがかかっていないとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき

●スリップ表示灯が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

●ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約２秒間です。

●ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください（車両が後退しない程度）。そのあともう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると、“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。

・ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・P ポジションスイッチを押したとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
・ブレーキペダルから足を離さずに約 3 分以上経過したとき

■スリップ表示灯が点灯したときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

警告

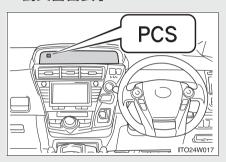
■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

■ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 90）

ただし、VSC システムが作動していないときに、横すべりした場合は作動しません。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

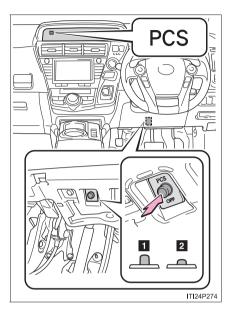
衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチ操作で、プリクラッシュブレーキのON／OFFの切りかえができます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

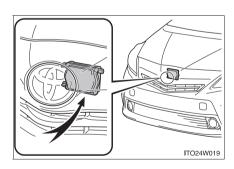
プリクラッシュブレーキの切りかえ

ITI24P274

1 プリクラッシュブレーキ ON

2 プリクラッシュブレーキ OFF

OFF にすると PCS 警告灯が点灯します。

レーダーセンサー

ITO24W019

走行中に進路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度・進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

知識

■システムの作動条件

●プリクラッシュシートベルトの作動条件①

・車速が約 30km/h 以上
・緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
・フロント席の乗員がシートベルトを着用している

●プリクラッシュシートベルトの作動条件②

・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た対向車や障害物の接近速度が約 30km/h 以上
・フロント席の乗員がシートベルトを着用している

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

・車速が約 30km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物の接近速度が約 30km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件

・自車速度が約 15km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 15km/h 以上
・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

●カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき

●車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき

●上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき

●幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき

●凸凹のある路面を走行するとき

●路面上に金属物、段差または突起物があるとき

●車高が極端に変化しているとき

●センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

●カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●VSC が作動していないときに車が横すべりしている状態

●車両姿勢が極端に変化している状態

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■システムに異常がある、またはシステムが一時的に使用できないときは

警告灯が点灯または点滅します。（→P. 367）

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しない場合があります。

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。
お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

警告

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

● できるだけ荷物はラゲージルームに積む

● 荷物が安全な位置に置かれているか確認する

● 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む

● 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

⚠ 警告

■荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・トノカバー（販売店オプション）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

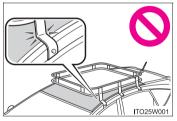
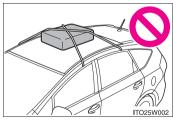
警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ルーフに荷物を積むときは（パノラマルーフ装着車）**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、パノラマルーフに傷が付いたり、変形したり、ルーフラックが脱落したりするおそれがあります。

- パノラマルーフにあたるようなルーフラックは装着しない

- パノラマルーフに直接荷物を積まない

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
（タイヤについて：→P. 309）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをＰにして駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前２輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■補機バッテリーについて

この車の補機バッテリーは、メンテナンスフリーです。一般的な 12V バッテリーのように、冬に備えてバッテリー液量や比重を点検する必要はありません。

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず４輪とも装着する

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急ハンドル・急ブレーキを避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **タイヤチェーンの使用について**

●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■ **フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

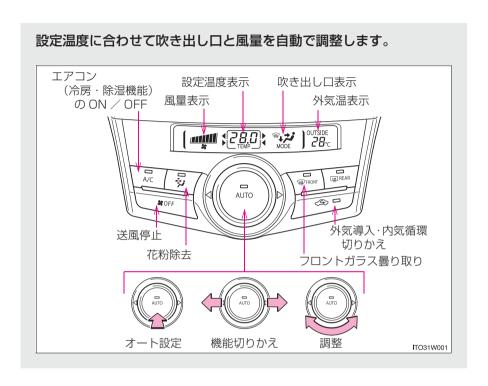
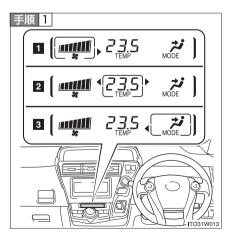
3-4. その他の室内装備の使い方

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン（冷房・除湿機能）の ON ／ OFF
設定温度表示
風量表示
吹き出し口表示
外気温表示
OUTSIDE 28℃
28.0 TEMP
MODE
A/C
FRONT
REAR
AUTO
OFF
送風停止
花粉除去
外気導入･内気循環切りかえ
フロントガラス曇り取り
オート設定
機能切りかえ
調整
ITO31W001

機能の切りかえと設定のしかた

手順 1

を左右にスライドさせて設定を行う機能を選択する

選択中の機能が枠で囲まれます。
枠の横に表示される矢印は、次に枠を移動できる方向を表しています。

1 風量
2 設定温度
3 吹き出し口

手順 2 をまわして設定を変更する

オート設定を使うとき

  を押す※

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

エアコン（冷房・除湿機能）の ON ／ OFF を切りかえるには A/C を押します。（押すたびに機能の ON ／ OFF が切りかわります）

※ を押すと、自動で設定温度表示（ ）が選択されます。

手順 2 設定温度を上げるときは を右にまわし、下げるときは左にまわす

お好みの設定で使うとき

■ 基本設定

風量をかえる

手順 1

を左側にスライドさせ、風量表示（）を選択する

手順 2 風量を増やすときは

を右にまわし、減らすときは左にまわす

風量は 7 段階に調整できます。

エアコン（冷房・除湿機能）の ON ／ OFF を切りかえるには A/C を押します。（押すたびに機能の ON ／ OFF が切りかわります）

送風を止めるときは OFF を押します。

設定温度をかえる

手順 1

を左側、または右側にスライドさせ、設定温度（

）を選択する

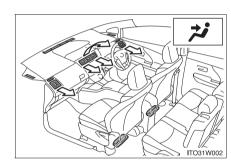
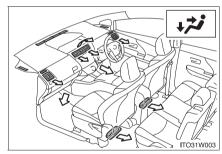
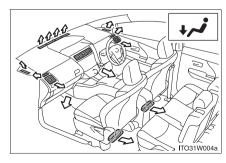
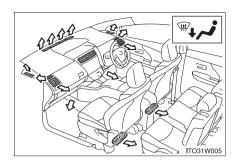
手順 2 温度を上げるときは

を右にまわし、下げるときは左にまわす

吹き出し口を切りかえる

  を右側にスライドさせ、吹き出し口表示（）を選択する

手順 2 を右、または左にまわす

吹き出し口表示は次の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

フロントガラスの曇りを取るには

 を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度　を押すと、前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

 を押す

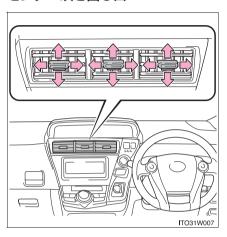
内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約 3 分後に　を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度　を押すと前のモードにもどります。

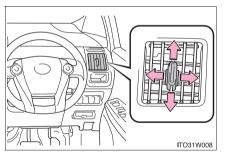
風向きの調整・吹き出し口の開閉

■ 風向きの調整

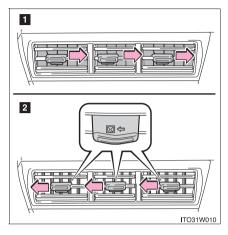
センター吹き出し口

ITO31W007

ノブを上下左右に動かして調整します。

サイド吹き出し口

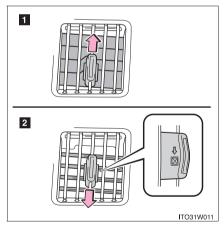
ITO31W008

ノブを上下左右に動かして調整します。

■吹き出し口の開閉

センター吹き出し口

1 開ける

2 閉める

ノブに刻印されている矢印の方向へ“カチッ”と音がする位置まで動かします。

サイド吹き出し口

1 開ける

2 閉める

ノブに刻印されている矢印の方向へ“カチッ”と音がする位置まで動かします。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。
次のような制御をする場合があります。

● を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する

●暖房時は、上半身に送られる風が冷たく感じることがある

■ を押したとき

選択枠が自動で風量表示に移動します。

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。
また、外気温の低いときは自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

外気温によって自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、フロントガラスの曇りを防止するために次のような制御をする場合があります。

・内気循環に切りかわらない
・エアコンの電源が自動的に入る
・1 分後、作動が停止する

●雨天時は窓が曇るため、[FRONT]を押してください。

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去モードが OFF のときも、花粉はフィルターで取り除かれています。

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき

●外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入口付近など）

■エコドライブモード（→P. 160）を使用しているときは

燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

●[A/C]が ON のとき、内気循環に切りかわる場合がある

●エンジン回転数やコンプレッサーを制御し、暖房／冷房の作動を抑制する

●オート設定での使用時、ファンの風量を抑える

上記のような制御により、暖房／冷房の効きが弱いと感じられることがあります。効きを強くしたいときは、風量を上げるかエコドライブモードを解除してください。（→P. 162）

■外気温が 0 ℃近くに下がったとき

[A/C]を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■エアコンの臭いについて

- ●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■補助ヒーター（PTC ヒーター）について*

ハイブリッドシステム始動直後からガソリンエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加え暖房を補います。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

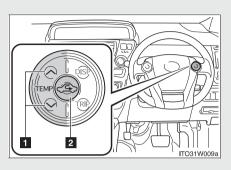
注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は必要以上にエアコンを使用しないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ステアリングスイッチでの操作

次の機能はステアリングスイッチで操作することができます。

1 温度調節

2 外気導入・内気循環切りかえ

設定温度をかえるには

温度を上げるときは の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押す

外気導入・内気循環を切りかえるには

を押す

スイッチを押すたびに、外気導入・内気循環が切りかわります。

知識

■ステアリングスイッチで設定温度を変更したときは

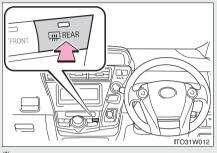
温度は変更されますが、エアコン表示部で選択されている枠（→P. 238）の位置はかわりません。

警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラー※から雨滴や霜を取るときにご使用ください。

※ミラーヒーター装着車

ON ／ OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■ミラーヒーターについて（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを ON にすると、ミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

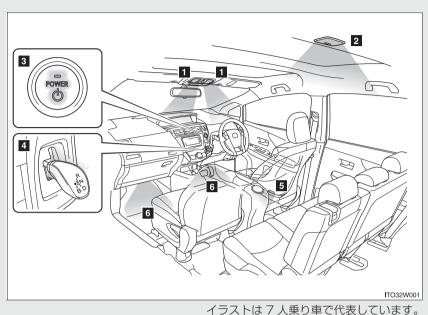
ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

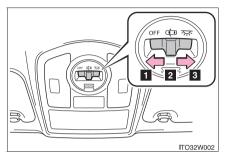
連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因になります。

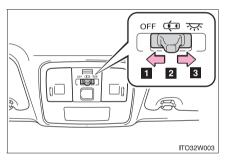
室内灯一覧

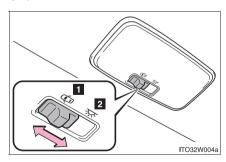
イラストは 7 人乗り車で代表しています。

1 フロントインテリアライト・パーソナルライト（→P. 252, 253）
2 リヤインテリアライト（→P. 252）
3 “パワー”スイッチ照明
4 シフトレバー照明
5 ドアカーテシ照明
6 足元照明*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

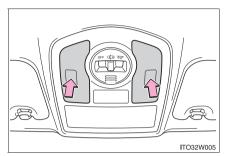
インテリアライト

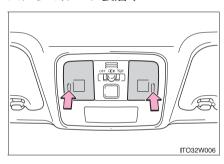
フロント（パノラマルーフ非装着車）

1 ライトを消灯する
2 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）
3 ライトを点灯する

フロント（パノラマルーフ装着車）

1 ライトを消灯する
2 ドアの開閉作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）
3 ライトを点灯する

リヤ

1 フロントインテリアライトの作動に連動してライトの点灯・消灯を切りかえる
2 ライトを点灯する

パーソナルライト

パノラマルーフ非装着車

ライトを点灯・消灯する

パノラマルーフ装着車

ライトを点灯・消灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“パワー”スイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

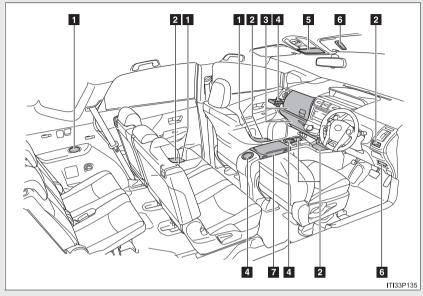
■補機バッテリーあがりを防ぐために

インテリアライトスイッチがドアポジションのとき、半ドア状態で各部の照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

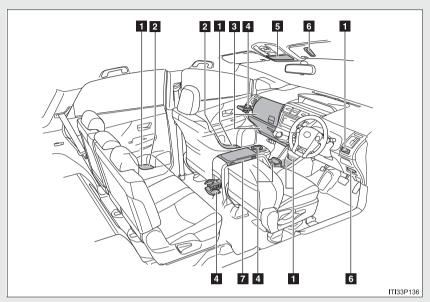
■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 434）

収納装備一覧

■ 7 人乗り車

1 ボトルホルダー*
2 オープントレイ
3 グローブボックス
4 カップホルダー
5 小物入れ（オーバーヘッドコンソールボックス）*
6 カードホルダー*
7 コンソールボックス

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■5 人乗り車

1 オープントレイ
2 ボトルホルダー*
3 グローブボックス
4 カップホルダー
5 小物入れ（オーバーヘッドコンソールボックス）*
6 カードホルダー*
7 コンソールボックス

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

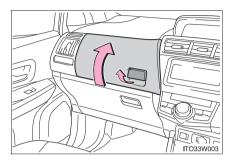
■**収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

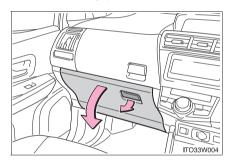
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

アッパーグローブボックス

ITO33W003

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

ロアグローブボックス

ITO33W004

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

知識

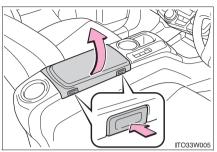
■ロアグローブボックスライトについて

車幅灯が点灯しているとき、ロアグローブボックスを開くとライトが点灯します。

警告

■走行中の警告

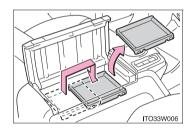
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながり、けがをするおそれがあります。

コンソールボックス

イラストは 7 人乗り車で代表しています。

ボタンを押してフタを開ける

前後どちらかのボタンを押すと開きます。

知識

■コンソールボックス内のトレイについて（5 人乗り車のみ）

トレイは持ち上げて前後に移動したり、取りはずすことができます。

⚠警告

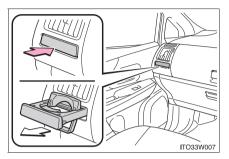
■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

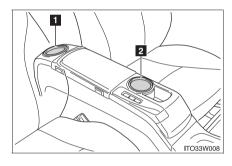
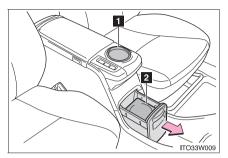
■フタを開閉するときは

手や指などを挟まないように注意してください。けがをするおそれがあります。

カップホルダー

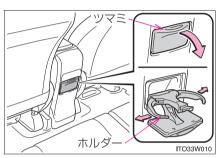
助手席前

押して開ける

コンソール部（7 人乗り車）

1 リヤ

2 フロント

コンソール部（5 人乗り車）

1 フロント上面

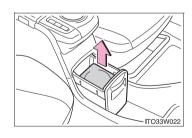
2 フロント側面

使用するときは、前方に引いて開けます。

リヤ

ツマミを引いてフタを開け、ホルダーを調整して使用します。

閉じるときは、ホルダーを格納してからフタを閉じてください。

知識

■コンソール部のカップホルダーについて（5 人乗り車）

フロント側面のカップホルダーは、中のトレイを取りはずし、小物入れとして使用することができます。

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

カップホルダーを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

注意

■カップホルダーの破損を防ぐために

カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

ボトルホルダー

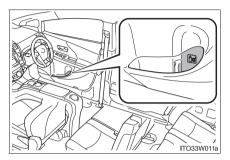
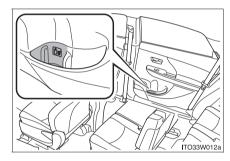
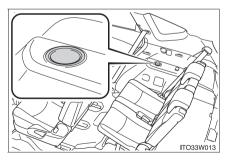
フロントシート

ITO33W011a

セカンドシート

ITO33W012a

サードシート（7 人乗り車のみ）

ITO33W013

知識

■ボトルホルダーについて

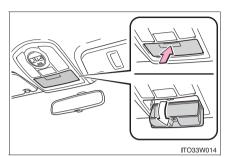
●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ（オーバーヘッドコンソールボックス）*

フタを押す

小物を一時的に収納できます。

警告

■走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあり危険です。

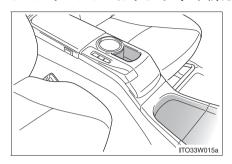
■収納してはいけないもの

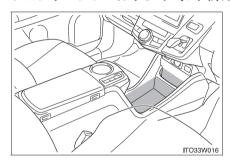
200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オープントレイ

フロントコンソールトレイ（7 人乗り車）

ITO33W015a

フロントコンソールトレイ（5 人乗り車）

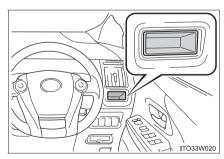
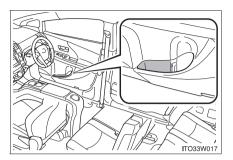
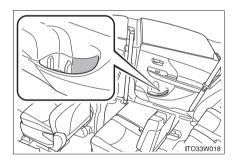
ITO33W016

運転席横ポケット（アクセサリーコンセント非装着車）

ITO33W020

フロントドアポケット

ITO33W017

リヤドアポケット

ITO33W018

⚠ 警告

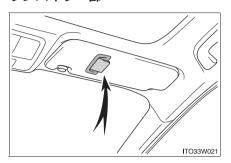
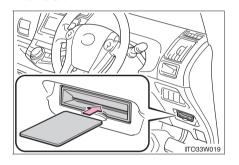
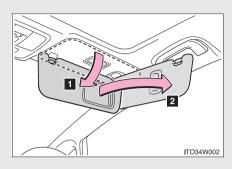
■走行中の警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

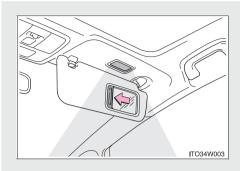
カードホルダー

サンバイザー部

運転席横*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとライトが点灯します。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ライトを点灯しないでください。

時計

1 “時”を調整する
2 “分”を調整する
3 “分”を 00 にする※

※（例） 1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

ITO34W007

知識

■時刻が表示されるとき

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■“パワー”スイッチ OFF 後の作動について

“パワー”スイッチを OFF にしたあとも、約 30 秒間またはドアを施錠するまでのあいだ、時刻は表示されています。

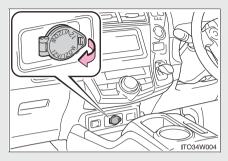
■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

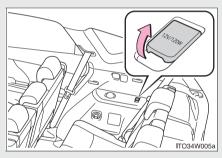
アクセサリーソケット

12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フロント

ITO34W004

フタを手前に引いて開ける

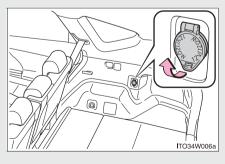
リヤ（7 人乗り車）

ITO34W005a

フタの先端を引き上げて開ける

リヤ（5 人乗り車）*

ITO34W006a

フタを手前に引いて開ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■使用条件

“パワー”スイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

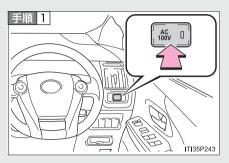
■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A をこえないようにしてください。

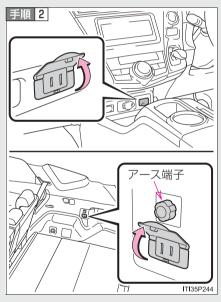
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント*

AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

メインスイッチを押す

スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

スイッチを押すたびに電源のON／OFF が切りかわります。

フタを開けて使用する

コンセントは、フロントコンソールとラゲージルームの 2 か所にあります。

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルームのコンセントを使用し、アース線を接続してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■駐車中または停車中に使用するときは

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれ罰則の適用を受けるおそれがあります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認したうえで、適切に使用してください。

■使用しないときは

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■アクセサリーコンセントについて

●AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。

●メインスイッチを ON にした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。

●使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●アクセサリーコンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- ●起動時のピーク電力が高い電気製品
- ●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- ●タイマー設定する機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■使用できないときは

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

- ●電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチを ON にしてください。
- ●電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチを ON にしてください。
- ●駆動用電池の残量を確認してください（→P. 169）。残量が少ない場合は、シフトポジションを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチを ON にしてください。
- ●炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチを ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■寒冷地で使用するときは

外気温が－15 ℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■安全にお使いいただくために

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品のプラグを抜き挿ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

警告

● アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

● 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

■ **駐車中または停車中に使用するときは**

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

● パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをPにしてください。

● 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

● 車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。(→P. 146)

● 状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近付けないでください。

● 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

● 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

警告

- アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■**接続する電気製品について**

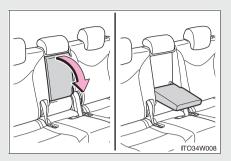
使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
なお、次のような機器は使用しないでください。

- 医療用機器
  車両の状態によっては、一時的に AC 電源出力が断たれることがあります。
- 計量器・計測器など
  AC 電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

⚠注意

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
  走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。
- お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。
- アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

アームレスト（セカンドシート）＊

手前に倒して使用します。

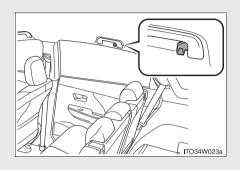
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

コートフック

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。

警告

■コートフックへかけてはいけないもの

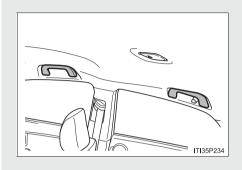
ハンガーなどの硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

警告

■アシストグリップについて

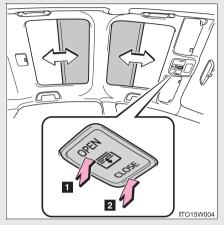
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

パノラマルーフシェード*

頭上のスイッチでパノラマルーフシェードを開閉することができます。

1 開ける※

2 閉める※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■挟み込み防止機能

● パノラマルーフシェードを閉めるときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

● 挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの“CLOSE”側を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。

● パノラマルーフシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

■ドアロック連動自動閉機能

“パワー”スイッチがOFFのとき、ドアを車外から施錠、または車内からワイヤレスリモコンで施錠すると、パノラマルーフシェードが自動で閉まります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■パノラマルーフシェードが正常に閉まらないときは

次の操作を行ってください。

手順 1 車を停止する

手順 2 パノラマルーフシェードが止まっている状態で、スイッチの“CLOSE”側を 10 秒以上（パノラマルーフシェードが完全に閉まるまで）押し続ける

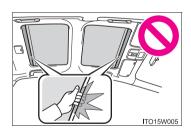
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動自動閉機能を非作動にすることができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 434）

警告

■パノラマルーフシェードを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パノラマルーフシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、パノラマルーフシェードの操作をさせないでください。
パノラマルーフシェードに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機能は、パノラマルーフシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側とパノラマルーフシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

⚠注意

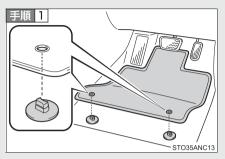
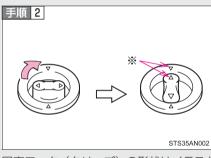
■パノラマルーフについて

パノラマルーフは樹脂でできています。ルーフの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

●お手入れをするときは中性洗剤を使用して、やわらかい布やスポンジで汚れを落とし、十分な水で洗い流してください。（→P. 304）

●荷物を載せるときは必ず、この車専用のルーフラックを使用してください。（→P. 232）

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

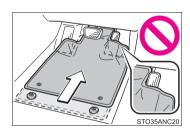
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

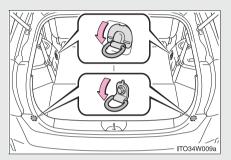
■運転する前に

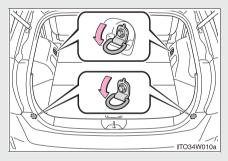
STO35ANC20

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

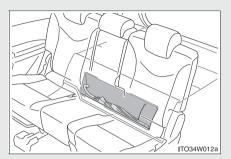
ラゲージルーム内装備

■ デッキフック

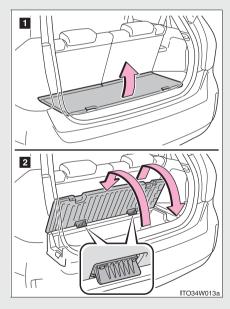
市販のネットやロープなどを使って、荷物を固定することができます。

7 人乗り車

フックを起こして使用する

5 人乗り車

フックを起こして使用する

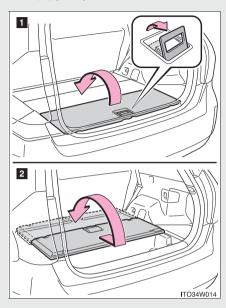
■ ラゲージトレイ（5 人乗り車のみ）

シートの後方に傘（77cm以下）などを収納できます。

■ デッキボード

7 人乗り車

1 開くときは、デッキボードを持ち上げる

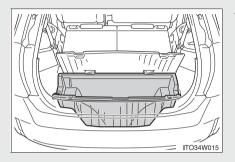
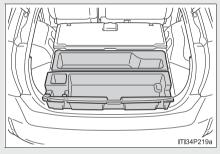
2 開いた状態を保持するには、デッキアンダートレイに立てかける

閉じるときは、少し上方へ持ち上げてから、車両後方へ倒してください。

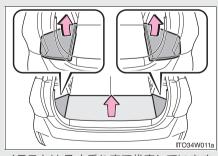
5 人乗り車

1 開けるときは、レバーを起こして引き上げる

2 車両前側のデッキアンダートレイを使用するときは、デッキボードを折りたたみ、持ち上げて車両前方へ動かす

■ **デッキアンダートレイ**

デッキボードの下にあります。
イラストはタイヤパンク応急修理キット装着車で代表しています。

7 人乗り車

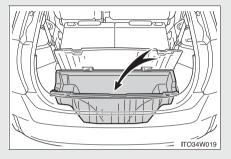
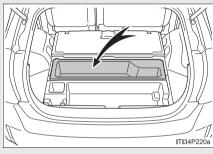
5 人乗り車

■ **デッキサイド小物入れ**

イラストは 7 人乗り車で代表しています。

使用するときはデッキボードを開いてから（→P. 290, 291）、フタを持ち上げて取りはずす

デッキフックにあたらないように、車両前側からフタを持ち上げてください。

■三角表示板等収納スペース

デッキアンダートレイに三角表示板等を収納することができます。
イラストはタイヤパンク応急修理キット装着車で代表しています。

7 人乗り車

5 人乗り車

知識

■三角表示板の収納について

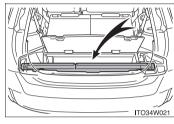
三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

■トノカバー収納スペース

トヨタ販売店で装着したトノカバーを、デッキアンダートレイに収納することができます。
イラストはタイヤパンク応急修理キット装着車で代表しています。

7 人乗り車

5 人乗り車

警告

■**デッキフックを使用しないときは**

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

■**走行中の警告**

● 各収納スペースのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● ラゲージトレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

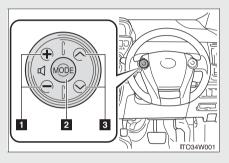
注意

■**デッキボードの破損を防ぐために**

デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

ステアリングスイッチ（オーディオ操作用）

メーカーオプションのナビゲーションシステムおよび、この車のステアリングスイッチに対応している販売店装着オプションのナビゲーションシステム・オーディオを操作することができます。

- メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
- 販売店装着オプションのナビゲーションシステム·オーディオ装着車は、装着された製品により操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書を参照してください。

1 音量の調節
2 電源の ON ／ OFF·モードの切りかえ
3 CD・ラジオなどの操作

電源を入れる

MODE を押す

電源が ON のとき MODE を“ピッ”と音がするまで押したまま保持すると電源が OFF になります。（装着された製品により、音がしない場合があります）

モードを切りかえる

電源が ON のとき MODE を押す

押すごとにモード（CD・ラジオなど）が切りかわります。

音量を調整する

音量を大きくするときは の“+”側を、小さくするときは“−”側を押す

スイッチを押したまま保持すると、音量を連続して調整できます。

 警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた　4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

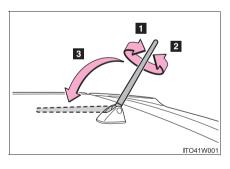
お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかけます。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着または格納することができます。

1 取りはずす
2 取り付ける
3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、アンテナ・リヤスポイラーが引っかかり、洗車できない場合や、傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に、給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)

■アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング*について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド(磨き粉)が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■パノラマルーフの水アカについて

水アカを落としきれない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

注意

■**アンテナの取りはずしについて**

● 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

● 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■**アルミ部品の清掃について**

ボンネットを清掃するときは、強く押したり、体重をかけたりしないでください。アルミ部分がへこむおそれがあります。

■**パノラマルーフ＊の損傷を防ぐために**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、パノラマルーフの表面を損傷したり、コーティングの劣化を早めたりするおそれがあります。

● 洗車前にはあらかじめルーフ表面についたほこりや泥、砂などの異物を水で取り除いておく

● 硬いブラシやたわし、先のとがったものなどは使用せず、やわらかい布・スポンジなどを使って清掃する

● 汚れを落とすときは中性洗剤を使用し、ガラスコート・カーワックスなどの油脂類・ガラスクリーナーなどのアルコール類・研磨剤の入ったものは使用しない
洗浄後は、洗剤が残らないように水を十分にかけて洗い流してください。

● 鉄粉が付着したときは、乾いた布でこすらず、水を流しながら軽くふきとるようにして取り除く

● ステッカーなどの粘着物や吸盤などを貼り付けない
パノラマルーフに貼り付けられているインフォメーションラベルは、内容を確認したらすみやかにはがしてください。

● ルーフ上に雪が積もったときは、ルーフ表面に傷が付かないように注意して取り除く
ルーフに霜・氷が付いたときも、スクレーパー・解氷剤は使用しないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや、やわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P. 32)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P. 111)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の警告をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオ*やフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

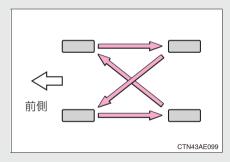
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

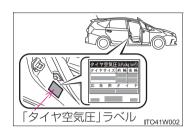
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

「タイヤ空気圧」ラベル

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa (kg/cm²)]	
	前輪	後輪
205/60R16 92V	240 (2.4)	230 (2.3)
215/50R17 91V	230 (2.3)	220 (2.2)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

応急用タイヤ＊：420kPa（4.2kg/cm²）※

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

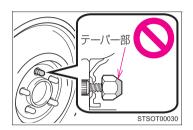
- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

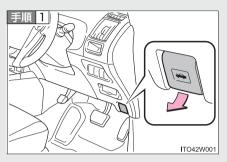
■走行中に空気もれが起こったら

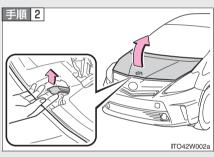
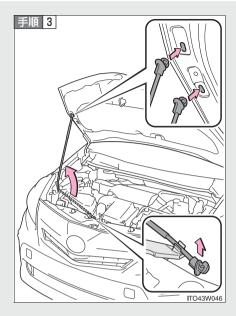
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。
また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

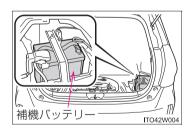
ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

通常は上側の穴を使用し、ボンネットを大きく開けたい場合は、下側の穴に挿し込みます。

知識

■補機バッテリーについて

- この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（運転席側）のデッキサイド小物入れ下部にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）
- 補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P. 413）

警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**修理・車検・整備点検をする場合は**

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるときは**

ITO42W005

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■**補機バッテリーの交換について**

交換する際はプリウス α 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■**ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

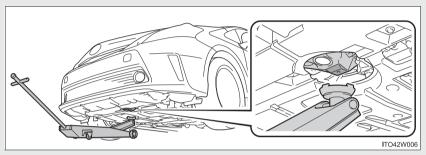
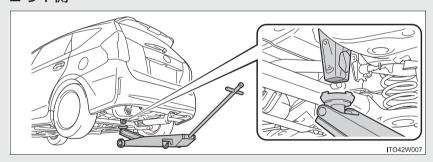
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

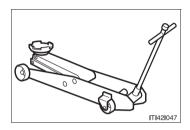
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取り扱い説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

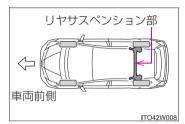
●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する

●車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにする

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

警告

- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない

- リヤサスペンション部などでジャッキアップしない

電球（バルブ）の交換

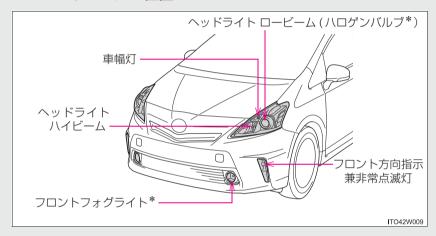
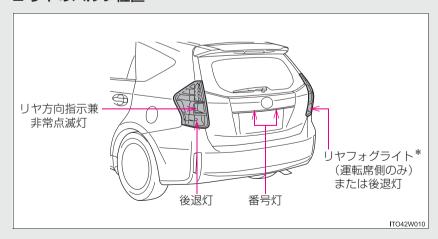
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

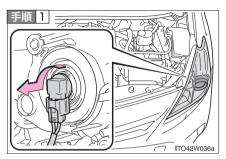
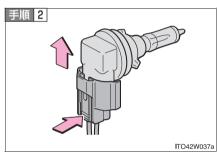
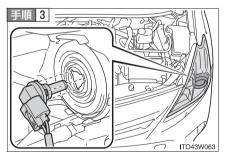
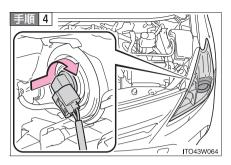
■ 電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確かめてください。（→P. 432）

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

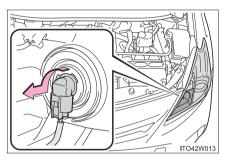
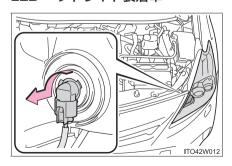
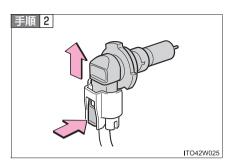
■ヘッドライト ロービーム（ハロゲンヘッドライト装着車）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

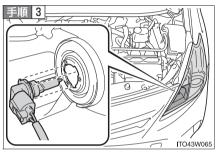
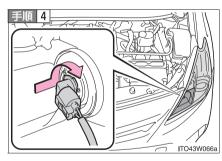
ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

■ ヘッドライト ハイビーム

手順 1 ソケットを取りはずす

ハロゲンヘッドライト装着車

LED ヘッドライト装着車

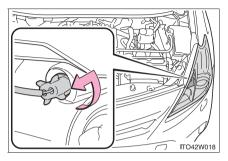
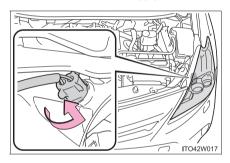
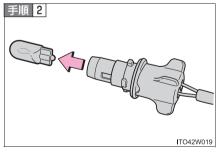
電球を取りはずす

電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

ソケットをまわして固定する

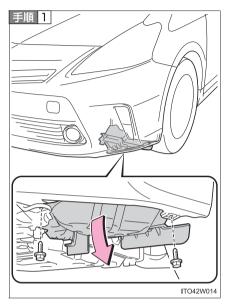
ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

■ 車幅灯

手順 1 ソケットを取りはずす

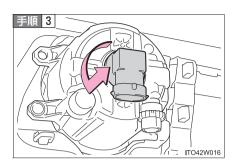
ハロゲンヘッドライト装着車

LED ヘッドライト装着車

手順 2 電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト*

ネジ（2 本）を取りはずし、フェンダーライナーをめくる

コネクターを取りはずす

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 3

電球を取りはずす

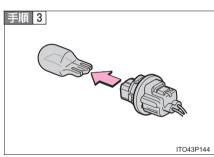
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

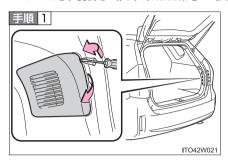
電球を取り付けたあとに、軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認してからコネクターを取り付けてください。

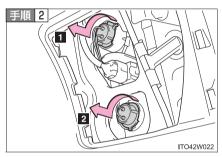
■ フロントト方向指示兼非常点滅灯

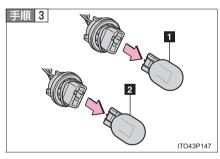
手順 1 ネジ（2 本）を取りはずし、フェンダーライナーをめくる
（→P. 325）

手順 2
ソケットを取りはずす

手順 3
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯・後退灯／リヤフォグライト*

バックドアを開けて、図の位置にある切り欠きにマイナスドライバーを挿し込んで、カバーをはずす

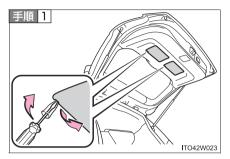
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ソケットを取りはずす

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯／リヤフォグライト

電球を取りはずす

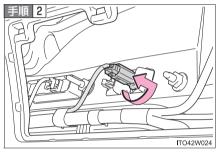
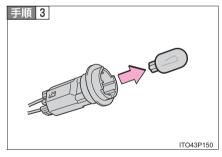
1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯／リヤフォグライト

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 番号灯

バックドアを開けて、図の位置にある切り欠きにマイナスドライバーを挿し込んで、カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ● ヘッドライトロービーム（LED ヘッドライト装着車）
- ● サイド方向指示兼非常点滅灯
- ● 尾灯
- ● 制動灯
- ● ハイマウントストップライト

知識

■LED ライトについて

ヘッドライト（LED ヘッドライト装着車のロービーム）・尾灯・制動灯・ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- ●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ●ライト内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するときは

→P. 338

警告

■**電球を交換するときは**

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ライトを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

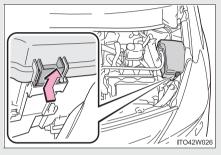
ヒューズの点検・交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 "パワー" スイッチを OFF にする

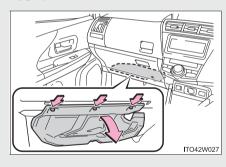
手順 2 ヒューズボックスを開ける

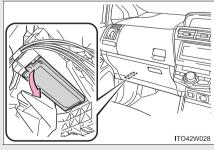
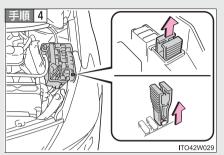
エンジンルーム

ITO42W026

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

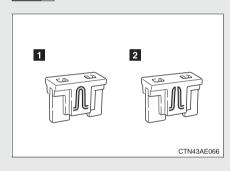
閉めるときは、奥にあるツメ（2箇所）を先に引っかけてから閉めてください。

助手席足元

ITO42W027

足元のカバーを取りはずして、ヒューズボックスカバーを取りはずす

ITO42W028

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」で確認する（→P. 334）

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

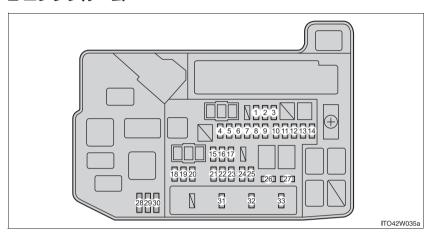
ヒューズはずしはエンジンルームのヒューズボックス内にあります。

手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

2 ヒューズ切れ

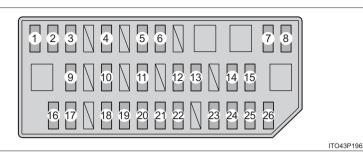
ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	S-HORN	10A	S-HORN
2	ENG W/P	30A	冷却システム
3	ABS MAIN NO.2	7.5A	ABS
4	AMP	30A	オーディオ
5	IGCT	30A	パワーコントロールユニット、始動系
6	DC/DC-S	5A	インバーター＆コンバーター
7	P CON MAIN	7.5A	P ポジション制御システム、 トランスミッション
8	AM2	7.5A	始動系
9	ECU-B2	7.5A	スマートエントリー＆スタートシステム
10	MAYDAY	10A	未使用
11	ECU-B3	10A	エアコン
12	TURN & HAZ	10A	方向指示灯
13	ETCS	10A	燃料噴射システム
14	ABS MAIN NO.1	20A	ABS
15	H-LP HI MAIN	20A	ヘッドライトハイビーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
16	HV BATT	10A ※	駆動用電池
17	DRL	7.5A	未使用
18	PCU	10A	インバーター＆コンバーター
19	IGCT NO.2	10A	ハイブリッドシステム、P ポジション制御システム、インバーター＆コンバーター
20	MIR HTR	10A	ミラーヒーター
21	RAD NO.1	15A	オーディオ、ナビゲーションシステム
22	DOME	10A	ドアカーテシライト、パーソナルライト、インテリアライト、足元照明、バニティライト、メーター
23	ECU-B	7.5A	スマートエントリー＆スタートシステム、メインボデー ECU
24	H-LP LH HI	10A	左側ヘッドライト（ハイビーム）
25	H-LP RH HI	10A	右側ヘッドライト（ハイビーム）
26	EFI NO.2	10A	燃料噴射システム
27	IGCT NO.3	10A	冷却システム
28	SPARE	30A	予備ヒューズ
29	SPARE	10A	予備ヒューズ
30	SPARE	7.5A	予備ヒューズ
31	EFI MAIN	20A	燃料噴射システム
32	BATT FAN	10A	冷却ファン
33	IG2	20A	始動系、燃料噴射システム

※ 7 人乗り車のみ装着されます

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	CIG	15A	アクセサリーソケット
2	ECU-ACC	10A	メインボデーECU、電動ミラー、オーディオ、ナビゲーションシステム
3	PWR OUTLET	15A	アクセサリーソケット
4	SEAT HTR FR	10A	未使用
5	SEAT HTR FL	10A	未使用
6	DOOR NO.1	25A	パワードアロックシステム
7	DBL LOCK	25A	未使用
8	FR FOG	15A	フロントフォグライト
9	OBD	7.5A	ダイアグノーシスコネクター
10	RR FOG	7.5A	リヤフォグライト
11	STOP	10A	制動灯
12	P FR DOOR	25A	パワーウインドウ（助手席）
13	D FR DOOR	25A	パワーウインドウ（運転席）
14	DOOR RR	25A	パワーウインドウ（リヤ席運転席側）
15	DOOR RL	25A	パワーウインドウ（リヤ席助手席側）
16	ECU-IG NO.1	10A	メインボデーECU
17	ECU-IG NO.2	10A	PCS、電動パワーステアリング、オーディオ、ナビゲーションシステム、パノラマルーフシェード、方向指示灯、ワイパー、ヘッドライトクリーナー

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
18	GAUGE	10A	自動光軸調整システム、助手席シートベルト非着用警告灯、メーター
19	A/C	10A	エアコン
20	WASHER	15A	ウォッシャー
21	RR WIP	20A	リヤワイパー＆ウォッシャー
22	WIP	30A	ワイパー
23	MET	7.5A	メーター
24	IGN	10A	スマートエントリー＆スタートシステム、SRSエアバッグ、燃料噴射システム
25	PANEL	10A	エアコン、非常点滅灯、P ポジションスイッチ、ナビゲーションシステム、インテリジェントパーキングアシスト、ヘッドライトクリーナー、助手席シートベルト非着用警告灯、自動光軸調整システム、グローブボックスライト、時計、オーディオ
26	TAIL	10A	自動光軸調整システム、車幅灯、尾灯、番号灯、リヤフォグライト、フロントフォグライト

知識

■ヒューズを交換したあと

- ●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 320）
- ●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヒューズを交換する前に

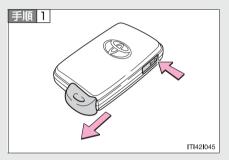
ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

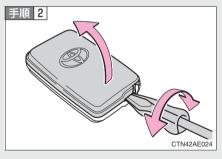
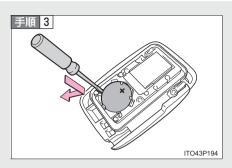
- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバーなど
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 3

ITO43P194

消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■**取りはずした電池と部品について**

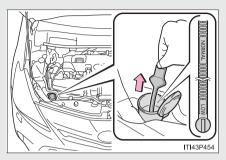
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補給する

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

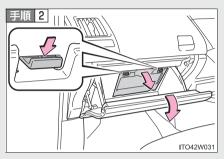
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “パワー”スイッチを OFF にする

手順 2

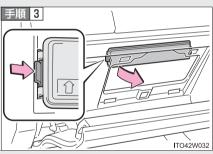
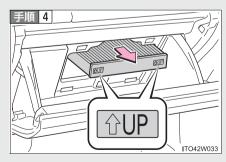
ITO42W031

グローブボックスを開き、フィルター交換用のカバーをはずす

手順 3

ITO42W032

フィルターカバーを取りはずす

手順 4

ITO42W033

フィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは 20,000km [10,000km※] ごとを目安に交換してください。

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら

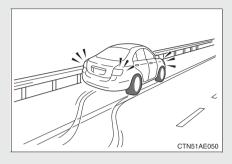
5

5-1. まず初めに

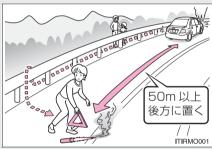
5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 350）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→P. 351）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方において下さい。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

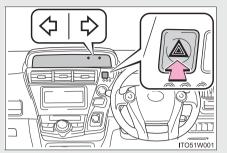
知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯

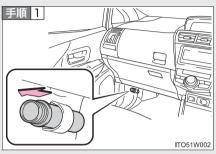
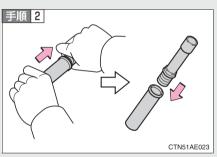
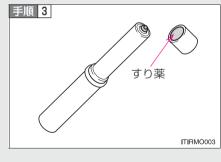
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムの停止中に、非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

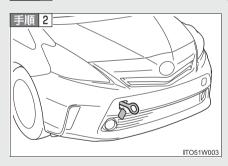
■ けん引される前に

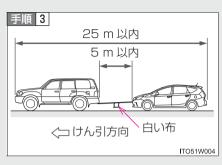
次の場合は、けん引を行う前に、トヨタ販売店へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムは始動するが、車が動かない
- 異常な音がする

P ポジション制御システム･スマートエントリー＆スタートシステム･イモビライザーシステムに異常があるとき、または補機バッテリーがあがったときは、前輪が固定されている可能性があるため、前輪が接地した状態で車両をけん引することはできません。その場合は、前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■ けん引されるときは

手順 1 けん引フックを取り付ける（→P. 355）

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

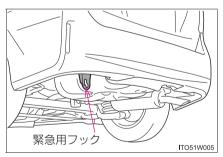
布の大きさ：
0.3 m平方(30 cm×30 cm)以上

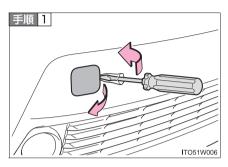
手順 4 けん引される車両のハイブリッドシステムを始動する

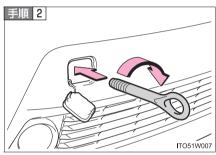
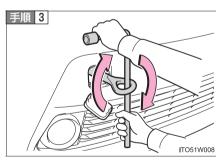
ハイブリッドシステムが始動しないときは、“ パワー ” スイッチを ON モードにしてください。

手順 5 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

緊急時のけん引

リヤの固縛用フックを緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

けん引フックの取り付け方

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 372, 388

警告

■車両を運搬するときは

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
前輪が接地した状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

■けん引中の運転について

- けん引を行うときは、細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “パワー”スイッチを OFF にしないでください。
  パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  ハイブリッドシステムが停止していると、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、システムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- トランスミッションのシフトポジション
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは、会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!) （赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1※2）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※1 **ブレーキ警告ブザー：**
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※2 **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯※1 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常
	高水温警告灯 エンジン冷却水高温異常 水温の上昇にともない、点滅から点灯にかわります。(→P. 420)
	ハイブリッドシステム異常警告灯※2 ハイブリッドシステムの異常

※1 充電警告灯が点滅した、またはハイブリッドシステムが始動できないときは、補機バッテリーが充電不足の場合があります。(→P. 367)

※2 警告灯の点灯に合わせて警告ブザーが鳴ります。

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
(ABS)	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS の異常
PCS （点滅）	**PCS 警告灯＊** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。(→P. 222) ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。(→P. 223) ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。(→P. 367)
（点灯）	**スリップ表示灯** ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 上記のシステム作動時には、点滅します。(→P. 216, 220)
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	P ポジション制御システム警告灯※ 1 P ポジション制御システムの異常 ・この場合は、パーキングロック機構が働かない可能性があります。駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。 ・P ポジション制御システムが故障すると、“パワー”スイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。
P ロック異常 駐車時は 確実に パーキング ブレーキを かけて下さい。	**P ポジション制御システム警告メッセージ** 停車時の P ポジション制御システムの異常 ・この場合は、パーキングロック機構が働かない可能性があります。駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。 ・P ポジション制御システムが故障すると、“パワー”スイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると OFF にすることができます。 ・走行すると消灯します。P ポジション制御システム警告灯が点灯している状態で停車すると、再度表示します。
	駆動用電池状態表示灯＊ 駆動用電池の点検・交換時期が近付いた 表示灯が点灯したら、すみやかにトヨタ販売店へご連絡ください。※ 2
	LED ヘッドライト警告灯＊ LED ヘッドライトの異常 異常時は LED ヘッドライトは点灯しませんが、故障の状況によっては、点灯できる場合があります。
	ヘッドライトオートレベリング警告灯＊ 自動光軸調整システムの異常

※ 1 警告灯の点灯に合わせて警告ブザーが鳴ります。

※ 2 そのまま車を使用し続けると表示灯が点灯から点滅にかわり、ブザーが鳴り、まもなくハイブリッドシステムが始動できなくなります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
(黄色)	**クルーズコントロール表示灯*／定速制御モード表示灯*** クルーズコントロールシステム／レーダークルーズコントロールシステムの異常
(黄色)	**車間制御モード表示灯*** レーダークルーズコントロールシステムの異常

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

<table>
<tr><th>警告灯</th><th>警告灯名・警告内容</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td rowspan="4">（点滅）</td><td colspan="2">Pポジション要求表示灯※</td></tr>
<tr><td>長時間シフトポジションがNになっているため、駆動用電池の残量が低下した</td><td>シフトポジションがNの状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトポジションをPにする</td></tr>
<tr><td>シフトポジションがN・D・Bで運転席ドアを開けた</td><td rowspan="2">シフトポジションをPにする</td></tr>
<tr><td>シフトポジションがP以外の状態でハイブリッドシステムを始動しようとした</td></tr>
<tr><td></td><td>ハイブリッドシステム過熱警告灯※
ハイブリッドシステムがオーバーヒートした
負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときに警告灯が点灯する場合があります。</td><td>車両を停車して点検する（→P. 420）</td></tr>
<tr><td>（外枠のみ点滅）</td><td>駆動用電池残量低下警告灯※
長時間シフトポジションがNになっているため、駆動用電池の残量が低下した</td><td>シフトポジションがNの状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトポジションをPにする</td></tr>
</table>

※ 警告灯の点灯に合わせて警告ブザーが鳴ります。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
(点滅または点灯)	**充電警告灯** 補機バッテリーが充電不足	約 6 秒後に警告灯が消灯したときは 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
		警告灯が点灯したままで、ハイブリッドシステムが始動しないときは 「補機バッテリーがあがったときは」(→P. 413)の手順でハイブリッドシステムを始動してください。
PCS (点灯)	**PCS 警告灯＊** センサー部の汚れ、またはシステムの過熱により、PCS(プリクラッシュセーフティシステム)が現在機能していない	・グリルまたはセンサーの汚れを取り除く ・プリクラッシュセーフティシステムが過熱している場合は、通常温度になるまで待つ
	半ドア警告灯(警告ブザー※) いずれかのドアが確実に閉まっていない	開いているドアを閉める

※ **半ドア走行時警告ブザー:**

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

＊:車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	燃料残量警告灯※1 燃料の残量が約6L以下になった	燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2**）** 運転席・助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※1 警告灯の点灯に合わせて警告ブザーが鳴ります。

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯について

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

注意

■充電警告灯の点滅がひんぱんに発生するときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

<table>
<tr><th colspan="2">警告ブザー</th><th rowspan="2">スマートエントリー&スタートシステム警告灯</th><th rowspan="2">警告内容</th><th rowspan="2">対処方法</th></tr>
<tr><th>車内</th><th>車外</th></tr>
<tr><td rowspan="4">1 回</td><td rowspan="4">なし</td><td rowspan="4"></td><td>電子キーを携帯していない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした</td><td>電子キーを携帯する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">車室内で電子キーを検出できない状態で“パワー”スイッチを押した</td><td>電子キーが作動範囲内にあるか確認する(→P. 48, 49, 53)</td></tr>
<tr><td>電子キーが作動範囲内にあるのに警告灯が消灯しないときは、ブレーキを踏みながら電子キーで“パワー”スイッチにふれる(→P. 411)
電子キーと車両間の通信がさまたげられているか、電子キーの電池が切れています。</td></tr>
<tr><td>正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた</td><td>車室内に電子キーがあるか確認する</td></tr>
</table>

警告ブザー		スマートエントリー&スタートシステム警告灯	警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	3 回		“パワー”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され、同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトポジションがPの状態で、“パワー”スイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“パワー”スイッチを OFF にする または電子キーを車内にもどす
なし	連続		“パワー”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“パワー”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
連続	連続		シフトポジションがP以外の状態で“パワー”スイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席が開閉された	・シフトポジションを P にする ・電子キーを車内に入れる

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は、P. 309 を参照してください）

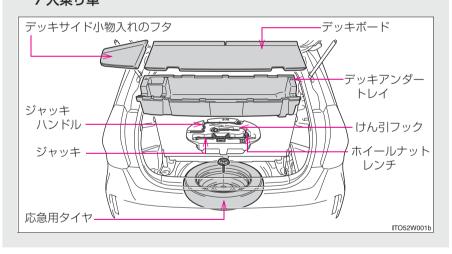
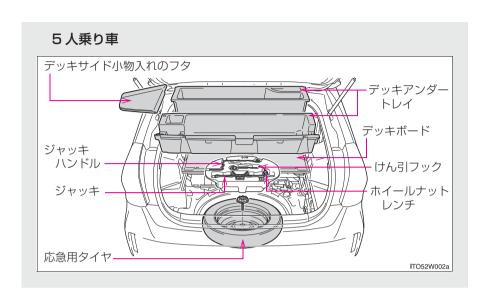
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

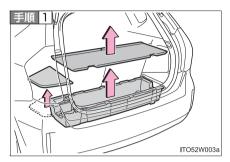
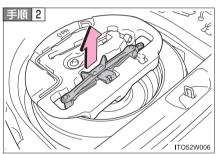
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

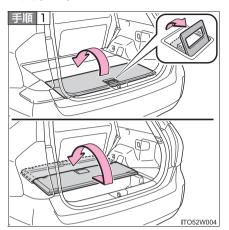
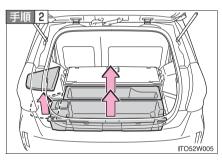
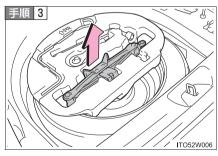
■ 工具とジャッキの搭載位置

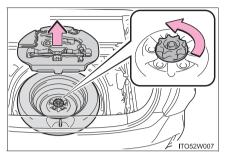
7 人乗り車

5 人乗り車

デッキサイド小物入れのフタ
デッキアンダートレイ
デッキボード
ジャッキハンドル
けん引フック
ジャッキ
ホイールナットレンチ
応急用タイヤ
ITO52W002a

工具とジャッキの取り出し方

7 人乗り車

デッキボードと助手席側デッキサイド小物入れのフタを取りはずし、デッキアンダートレイを車両から降ろす

ジャッキを取り出す

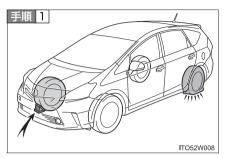
5 人乗り車

デッキボードを開け、車両前方へ動かす

助手席側デッキサイド小物入れのフタを取りはずし、デッキアンダートレイを車両から降ろす

ジャッキを取り出す

応急用タイヤの取り出し方

ツールホルダーを車両から降ろし、留め具を取りはずして応急用タイヤを取り出す

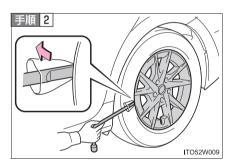
警告

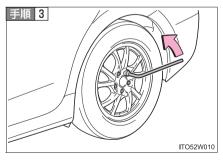
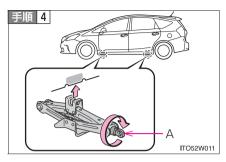
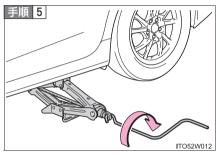
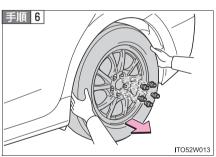
■**サービスプラグについて（5 人乗り車のみ）**

ツールホルダーや応急用タイヤを車両から降ろすとき、または搭載するときは、サービスプラグにあたらないよう、ご注意ください。(→P. 34)

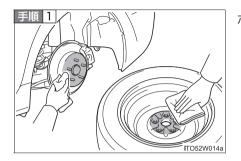
パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップ装着車は、ホイールキャップを取りはずす

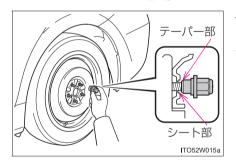
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先に布などを巻いて保護してください。

ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

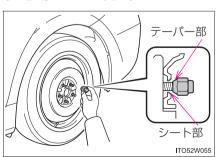
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

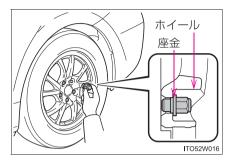
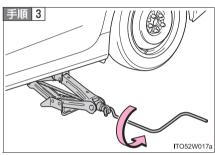
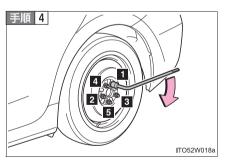
タイヤの取り付け

手順 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

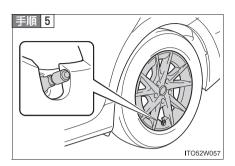
アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。

車体を下げる

図の番号順でナットを2､3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5

ホイールキャップ装着車は、ホイールキャップを取り付ける※

タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ 応急用タイヤに取り付けることはできません

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。
応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。(→P. 431)

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する

手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■応急用タイヤを使用するときは

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ブレーキ・急減速・急旋回は避けてください。

■応急用タイヤを収納するときは

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

警告

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ABS

●ブレーキアシスト

●VSC

●TRC

●クルーズコントロール*

●レーダークルーズコントロール*

●プリクラッシュセーフティシステム*

●EPS

●ナビゲーションシステム*

●バックガイドモニター*

●インテリジェントパーキングアシスト*

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ●ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐり込んで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

- ●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- ●次のことをお守りいただかないと、ナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  - ・ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
  - ・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
  - ・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
  - ・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→P. 312)

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■**パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■**応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時にくらべ車高が低くなっています。
段差を乗りこえるときはご注意ください。

■**応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

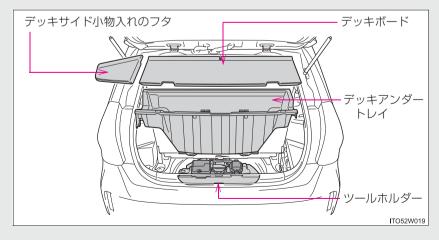
タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P. 392）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

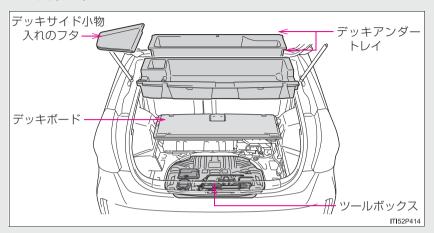
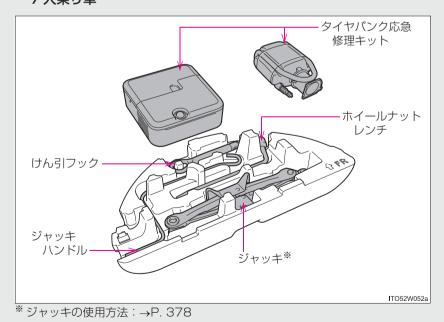
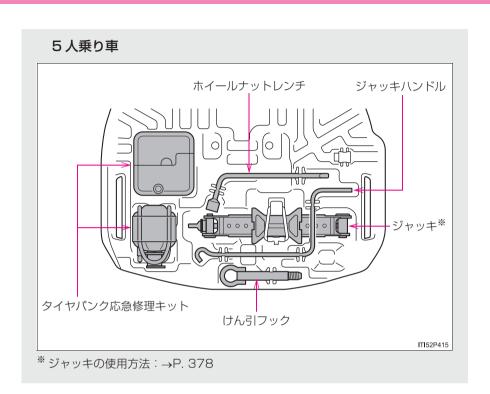
7 人乗り車

5 人乗り車

■ 工具・タイヤパンク応急修理キット

7 人乗り車

※ ジャッキの使用方法：→P. 378

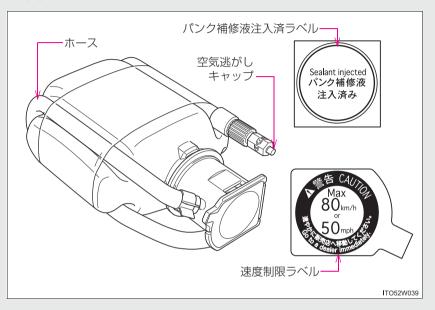
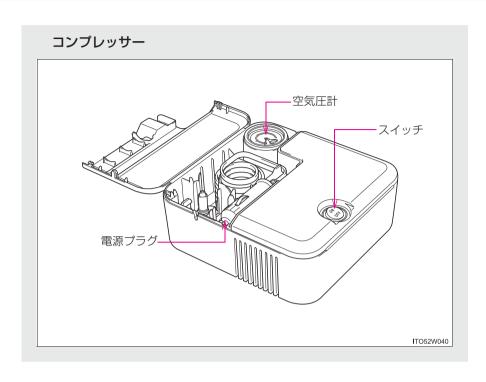
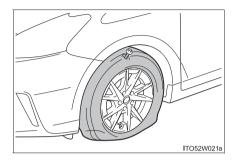
5人乗り車

※ ジャッキの使用方法：→P. 378

■ タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

ボトル

コンプレッサー

応急修理する前に

ITO52W021a

応急修理をする前に、タイヤの損傷程度を確認する

- タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

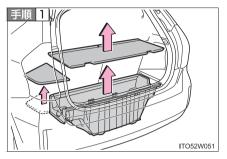
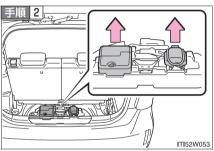
●ホイールが破損しているとき

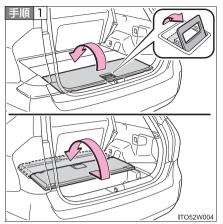
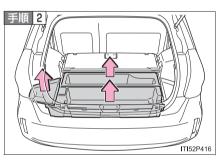
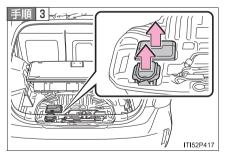
●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

●補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

7 人乗り車

デッキボードと助手席側デッキサイド小物入れのフタを取りはずし、デッキアンダートレイを車両から降ろす

応急修理キットを取り出す

5 人乗り車

デッキボードを開け、車両前方へ動かす

助手席側デッキサイド小物入れのフタを取りはずし、デッキアンダートレイを車両から降ろす

応急修理キットを取り出す

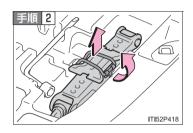
知識

■ジャッキ・工具の取り出し方

7 人乗り車

→P. 374

5 人乗り車

手順 1 ジャッキハンドルを取り出す

ジャッキを取り出す

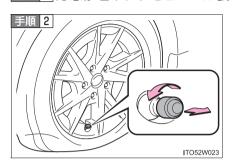
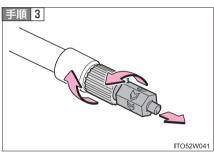
バンドのフックをはずしてください。

警告

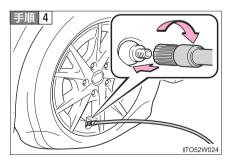
■サービスプラグについて（5 人乗り車のみ）

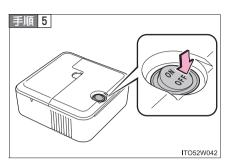
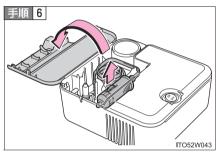
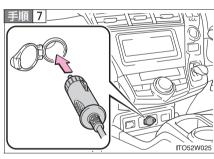
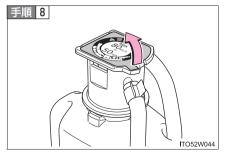
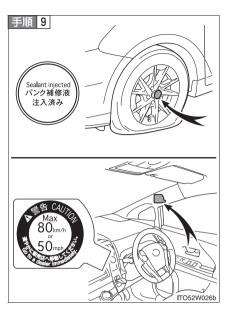
タイヤパンク応急修理キットを車両から降ろすとき、または搭載するときは、サービスプラグにあたらないよう、ご注意ください。（→P. 34）

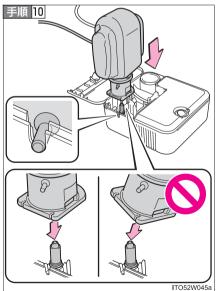
応急修理するときは

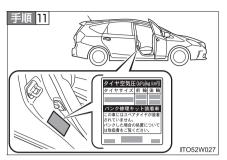
手順 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済ラベルは所定の位置へ貼り付けます。（手順 9 へ）

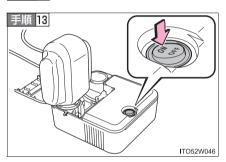
空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

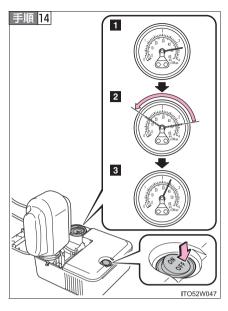
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する

フタを開けてコンプレッサーの電源プラグを取り出す

コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む(→P. 272)

速度制限ラベルをはがす

付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができなかった場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

ボトルをコンプレッサーに接続する

左の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。

手順 11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 310)

手順 12 ハイブリッドシステムを始動する(→P. 150)

手順 13 コンプレッサーのスイッチを ON にする

手順 14

空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

1 スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が急上昇する

2 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

3 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。
空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填･確認をくり返してください。

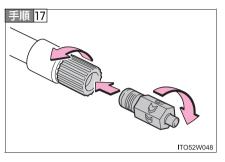
35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 403)

手順 15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

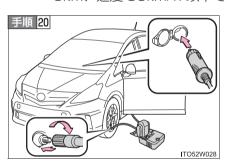
手順 16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

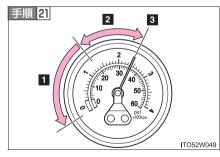
手順 17

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

手順 18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

手順 19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

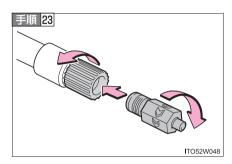
手順 20

走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

手順 21

コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

1 空気圧が130 kPa未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

2 空気圧が 130 kPa 以上、指定空気圧未満の場合： 手順 22 へ

3 空気圧が指定空気圧（→P. 310）の場合： 手順 23 へ

手順22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて 手順20 から実施する

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

手順24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

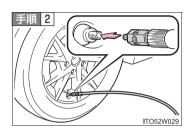
手順25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行く

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす

手順 2

ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

手順 3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■**タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■**パンクしたタイヤを応急修理するときは**

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

⚠ 警告

● パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

● 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

● 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

● 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

● 応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

● 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

● 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

● 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

● 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・再度空気圧を測ってください。130 kPa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするときは

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

■ 正しいハイブリッドシステム始動のしかた(→P. 150)に従っても始動できない場合

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※(→P. 411)
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。(→P. 33)
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。※(→P. 105)
- P ポジション制御システムに異常がある可能性があります。※

※これらの場合は、シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 413)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 413)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 “パワー”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、“パワー”スイッチを約 15 秒以上押し続ける

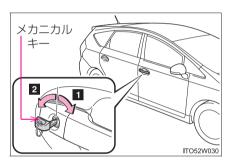
上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 40)

電子キーが正常に働かないときは

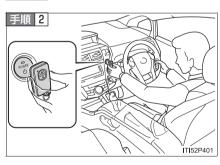
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 52）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P. 40）を使って次の操作ができます。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

ハイブリッドシステム始動の方法

手順 1 ブレーキペダルを踏む

電子キーのトヨタエンブレム面で“パワー”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“パワー”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。

手順 3 ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで “ パワー ” スイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにして “ パワー ” スイッチを押します。(→P. 151)

■電池交換について

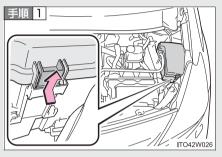
ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は、一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 340)

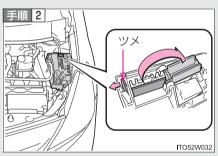
■“ パワー ” スイッチのモード切りかえについて

ハイブリッドシステム始動方法の 手順 3 で、ブレーキペダルから足を離して “ パワー ” スイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 151)

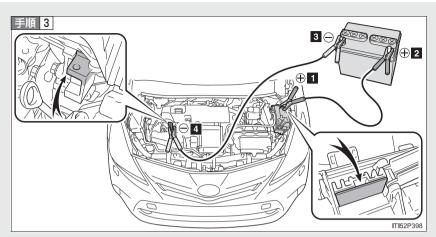
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、フタを持ち上げてはずします。

ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。

手順 3

ブースターケーブルを次の順につなぐ

1. 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
2. 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3. 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4. 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“ パワー ” スイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

手順 6 READY インジケーターが点灯したことを確認する

点灯しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

手順 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

手順 8 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ヒューズボックスのカバーは、奥にあるツメ（2 箇所）を先に引っかけてから取り付けてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ライトやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■**補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは**

- 補機バッテリー脱着直後は、スマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常に“パワー”スイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、“パワー”スイッチを OFF にしてから行ってください。
  補機バッテリーあがり前の“パワー”スイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。
- シフトポジションがPの状態で補機バッテリーがあがった場合は、Pから他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
- 補機バッテリーを再接続したときは、ハイブリッドシステムを始動させてから、すべてのシフトポジションへ切りかわることを、シフトポジション表示灯で確認してください。

■**補機バッテリーについて**

→P. 314

■**補機バッテリーの充電について**

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーのマイナス端子を脱着するときは

車体側のアース部分（マイナスケーブルの根元）ではなく、必ず補機バッテリー側の端子をはずしてください。

警告

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

救援車の補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

⚠警告

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

●誤って補機バッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について

→P. 315

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

■**救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

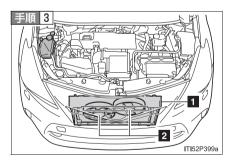
- 高水温警告灯（→P. 362）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- ハイブリッドシステム過熱警告灯（→P. 366）が点灯する
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

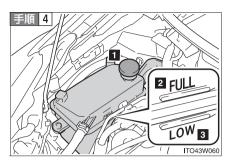
手順 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

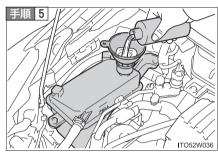
手順 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

1 ラジエーター

2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

1 リザーバータンク
2 “FULL”（上限）
3 “LOW”（下限）

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

手順 7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯が点灯したとき

手順 1 安全な場所に停車する

手順 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

手順 3

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

1 ラジエーター

2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

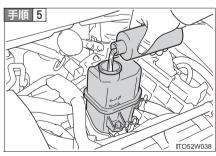
手順 4

冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

1 リザーバータンク

2 “F”（上限）

3 “L”（下限）

手順 5

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 ハイブリッドシステムを始動し、メーターを確認する

警告灯が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

警告灯が消えている場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムの停止後は、“パワー”スイッチ上のインジケーターとREADY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。冷却ファンにふれたり、近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■冷却水を入れるときの注意

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 ハイブリッドシステムを再始動する

手順 5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・もの・または人との衝突を避けるため、周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトポジションを N にする

シフトポジションが N になった場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 ハイブリッドシステムを停止する

シフトポジションが N にならない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

“パワー” スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	45

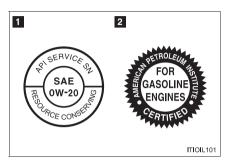
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキヤッスルモーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	3.9	4.2

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖気後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

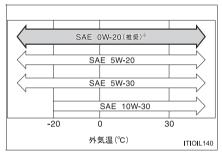
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）		
	ガソリンエンジン		パワーコントロールユニット
	排熱回収器付き※1	排熱回収器なし	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　　－ 12 ℃ 濃度 50%　　－ 35 ℃	6.9	6.5	2.7

※1 寒冷地仕様車に装着されています。

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正オートフルード　WS ※2	3.4

※2 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※3	79

※3 ハイブリッドシステムが作動している状態で、196 N（20 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300 N（31 kgf）のときのノッチ※数	8 ～ 11

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
4.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	205/60R16 92V	16 × 6　1/2J	240 (2.4)	230 (2.3)
	215/50R17 91V	17 × 7J	230 (2.3)	220 (2.2)
応急用タイヤ*	T135/70D17 102M	17 × 4T	420（4.2）	

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム ・LED ヘッドライト装着車 ・ハロゲンヘッドライト装着車 （バルブタイプ：H11）	 60 LED ※ 55
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	LED ※
	後退灯	21
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	パーソナルライト／フロントインテリアライト ・パノラマルーフ非装着車 ・パノラマルーフ装着車	 5 8
	リヤインテリアライト	8
	ドアカーテシライト	5
	バニティライト	8
	足元照明*	LED ※
	ロアグローブボックスライト	LED ※
	ラゲージルームライト	5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
ZVW40	2ZR-FXE （1.8L ガソリン）	5JM	FF （前輪駆動）
ZVW41			

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくは、トヨタ販売店へお問い合わせください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="2">スマートエントリー&スタートシステム
(→P. 43)</td><td>スマートエントリー&
スタートシステム</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>連続ロック操作の有効回数</td><td>2 回</td><td>無制限</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスドアロック
(→P. 58)</td><td>ワイヤレス機能</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="6">スマートエントリー&スタートシステム
(→P. 43)と
ワイヤレスドアロック
(→P. 58)共通</td><td rowspan="2">作動の合図(ブザー音量調整)</td><td rowspan="2">レベル 7</td><td>レベル 1 ～ 6</td></tr>
<tr><td>OFF</td></tr>
<tr><td>作動の合図(非常点滅灯)</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">解錠後ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間</td><td rowspan="2">約 30 秒</td><td>約 60 秒</td></tr>
<tr><td>約 120 秒</td></tr>
<tr><td>半ドア警告ブザー</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ライト自動点灯・消灯システム
(→P. 181)</td><td>ライトセンサーの感度調整</td><td>レベル 3</td><td>レベル 1 ～ 5</td></tr>
<tr><td>ライトを点灯するまでの時間</td><td>標準</td><td>長め</td></tr>
<tr><td>オートアラーム*
(→P. 106)</td><td>メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="7">イルミネーテッドエントリーシステム
(→P. 254)</td><td rowspan="2">消灯までの時間</td><td rowspan="2">約 15 秒</td><td>約 7.5 秒</td></tr>
<tr><td>約 30 秒</td></tr>
<tr><td>“ パワー ” スイッチ OFF 後の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>解錠時の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>検知エリア接近時の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>足元照明の点灯*</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>イルミネーション減光制御</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">メーター照明の自動調整</td><td>周囲の明るさにより、ディスプレイの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節</td><td>レベル 0</td><td>レベル
－ 2 ～ +2</td></tr>
<tr><td>周囲の明るさにより、減光したディスプレイの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節</td><td>レベル 0</td><td>レベル
－ 2 ～ +2</td></tr>
<tr><td>パノラマルーフシェード*のドアロック連動自動閉機能
(→P. 284)</td><td>“パワー” スイッチが OFF で、ドアを車外から施錠、または車内からワイヤレスリモコンで施錠したときの作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
</table>

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

<table>
<tr><th>項目</th><th>初期設定が必要なとき</th><th>参照先</th></tr>
<tr><td>バックガイドモニター*</td><td rowspan="2">・補機バッテリーの充電、
交換後の再接続時
・ヒューズ交換後</td><td rowspan="2">別冊「ナビゲーション
システム取扱書」</td></tr>
<tr><td>インテリジェント
パーキングアシスト*</td></tr>
</table>

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトロニックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックトールコレクション
EV	エレクトリックビークル
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール
S-VSC	ステアリングアシステッド ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

え

お

し

す

は

症状別さくいん

■警告灯一覧

警告灯	名称	参照ページ
	ブレーキ警告灯（赤色）	P. 361
	充電警告灯	P. 362, 367
	油圧警告灯	P. 362
	高水温警告灯	P. 362
	ハイブリッドシステム異常警告灯	P. 362
	エンジン警告灯	P. 363
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 363
	ABS & ブレーキアシスト警告灯	P. 363
	パワーステアリング警告灯	P. 363
PCS	PCS 警告灯（点滅）	P. 363, 367
	スリップ表示灯（点灯）	P. 363
	電子制御ブレーキ警告灯（黄色）	P. 363
	P ポジション制御システム警告灯	P. 364
Pロック異常 駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて下さい。	P ポジション制御システム警告メッセージ	P. 364
	駆動用電池状態表示灯	P. 364
	LED ヘッドライト警告灯	P. 364

※レーダークルーズコントロール装着車は、定速制御モード表示灯になります。

警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅をご確認ください。(→P. 361)

■警告灯が点灯・点滅していないときは、次のことをご確認ください。

<table>
<tr><th>お車の状況</th><th>鳴ったときの状況</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="6">停車／駐車中</td><td>ドアを開けたとき</td><td rowspan="3">P. 50</td></tr>
<tr><td>車外に出たとき</td></tr>
<tr><td>スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとしたとき</td></tr>
<tr><td>ワイヤレスリモコンでドアを施錠しようとしたとき</td><td>P. 58</td></tr>
<tr><td>シフトポジションをRにしたとき</td><td>P. 163</td></tr>
<tr><td>アクセルペダルを踏んだとき</td><td>P. 163</td></tr>
<tr><td>走行中</td><td>シフト操作を行ったとき</td><td>P. 162</td></tr>
</table>

ハイブリッドさくいん

ハイブリッドシステムについての解説

ハイブリッドシステムについての注意事項

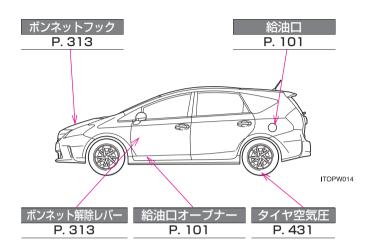
運転のしかた

環境に配慮した経済的な運転

事故が起きたときは

ハイブリッド車特有の説明がある項目

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料タンクの容量（参考値）	45L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン P. 428
タイヤが冷えているときの空気圧	16 インチタイヤ 前輪：240（2.4）kPa（kg/cm²） 後輪：230（2.3）kPa（kg/cm²） 17 インチタイヤ 前輪：230（2.3）kPa（kg/cm²） 後輪：220（2.2）kPa（kg/cm²） 応急用タイヤ*：420 (4.2) kPa (kg/cm²)
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：3.9L オイルとフィルター交換時：4.2L
エンジンオイルの種類	トヨタキャッスルモーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ニ-48

M 47839
01999ー47839
II−2014年２月25日
2013年８月１日 初版
2014年３月４日 ３版
プリウス α